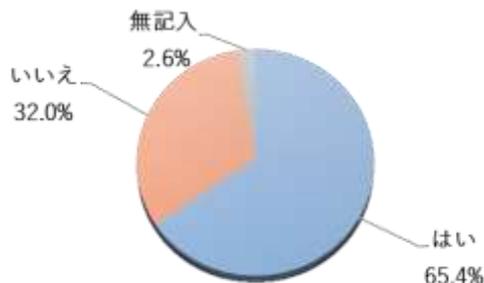


第4章 結果の概要

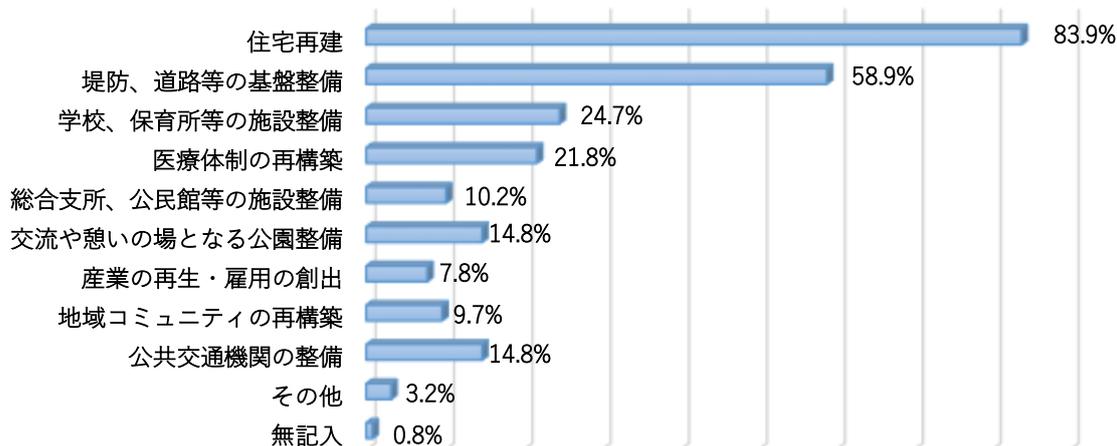
※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

1 東日本大震災に伴う復旧・復興事業について

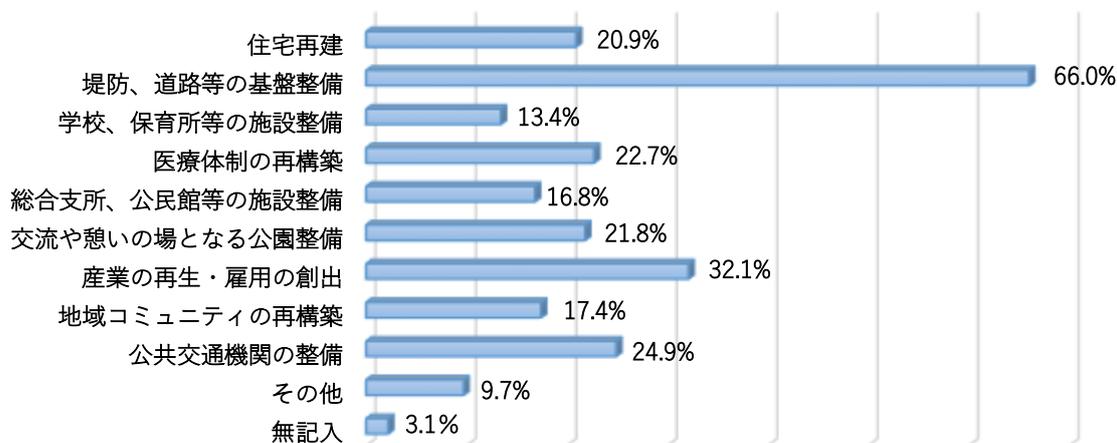
問1 石巻市の復旧・復興が進んでいると感じていますか。1つ選んでください。



問2 問1で「はい」と答えた方に質問します。進んでいると感じている主な事業は何ですか。当てはまるものを全て選んでください。



問3 問1で「いいえ」と答えた方に質問します。遅れていると感じている主な事業は何ですか。当てはまるものを全て選んでください。



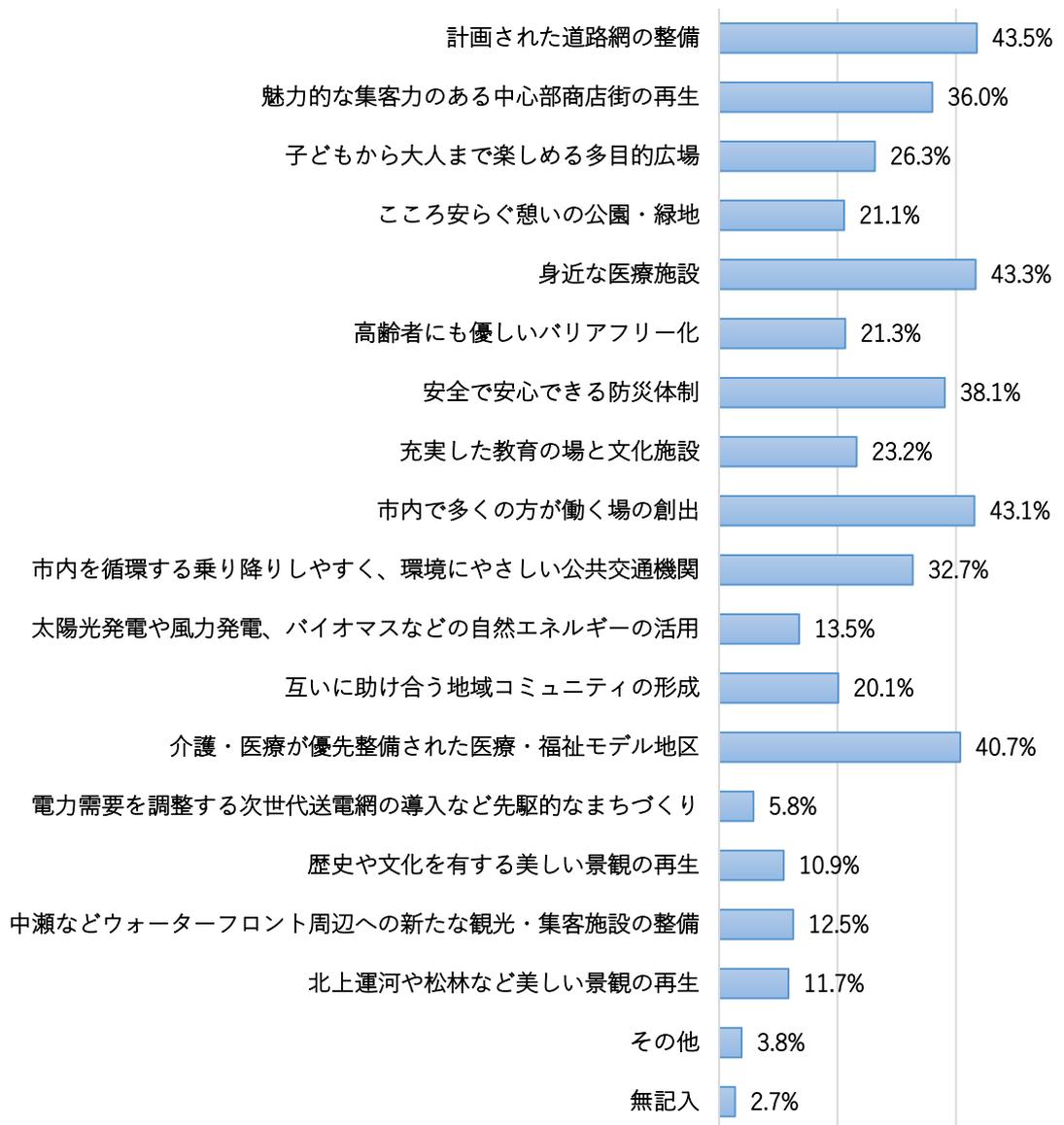
復旧・復興が「進んでいる」と回答した方が、前回調査時より13.3ポイント増加し、「進んでいない」と回答した方は、前回調査時より14.2ポイント減少しました。

その主な理由として「住宅再建」を挙げる方が多く、遅れていると感じている割合も大きく減少しており、住宅再建の進展を感じている方が多いことがうかがえます。

次に進んでいると感じている事業は、「堤防、道路等の基盤整備」となっていますが、遅れていると感じている事業においても高い割合を占めています。

今後も、堤防、道路等の基盤整備について、国、県等と調整を図りながら事業の円滑な推進に努めるとともに、本市の持続的発展に向けた産業の再生・雇用の創出や地域コミュニティの再生に一層取り組んでいく必要があると考えます。

問4 石巻市の将来の再生・発展のために望むまちづくりについてお聞きします。
特に重要と思うものを5つ選んでください。



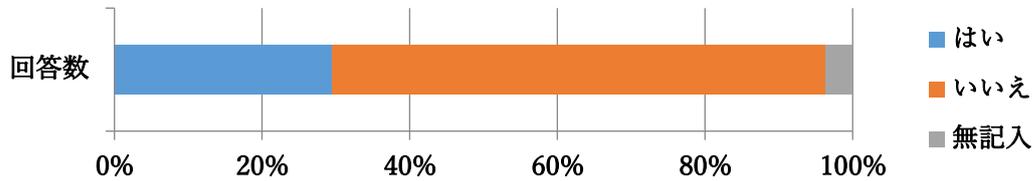
前回調査時と同様に、「計画された道路網の整備」「安心できる防災体制」「身近な医療施設」「市内で多くの方が働く場の創出」「介護・医療が優先整備された医療・福祉モデル地区」を望む声が多く、今後のまちづくりにおいて、道路、防災、雇用、医療、福祉が重要と考えられていることがうかがえます。

また、自由記入欄では、道路や交通に関する要望が最も多く、次いで、美しい浜の再生等の自然環境・景観の保全、安心して子育てできる支援の充実を望む声がありました。

広報紙「リバイブ いしのまき」について

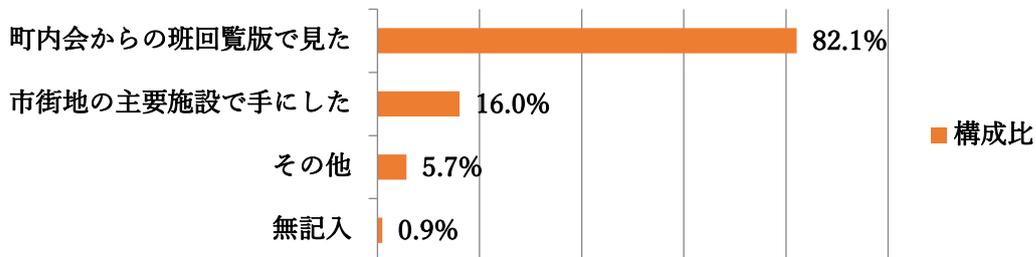
(配布地区 石巻・湊・渡波・稲井・蛇田地区のみ 対象 720 名)

問5 広報紙「リバイブ いしのまき」をご覧になったことがありますか。



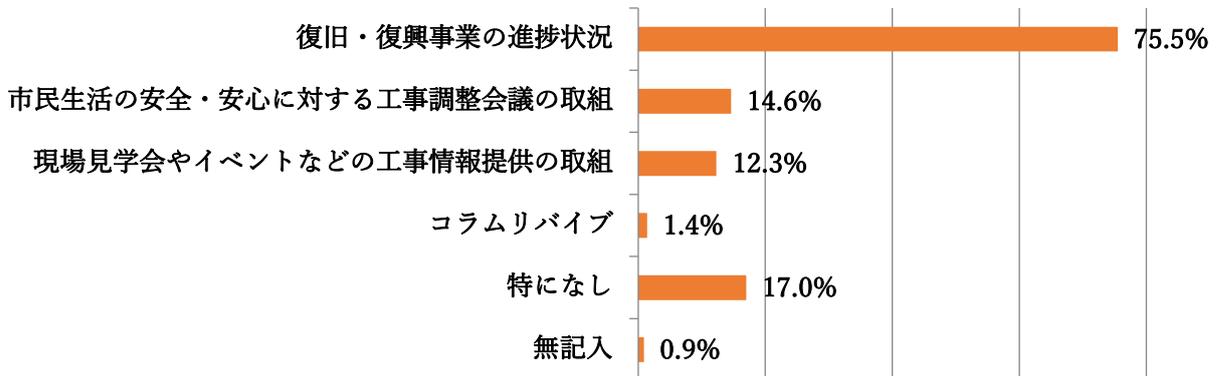
以下、問5で「はい」と答えた方に質問します。

問6 ご覧になったのはどこですか。当てはまるものを全て選んでください。

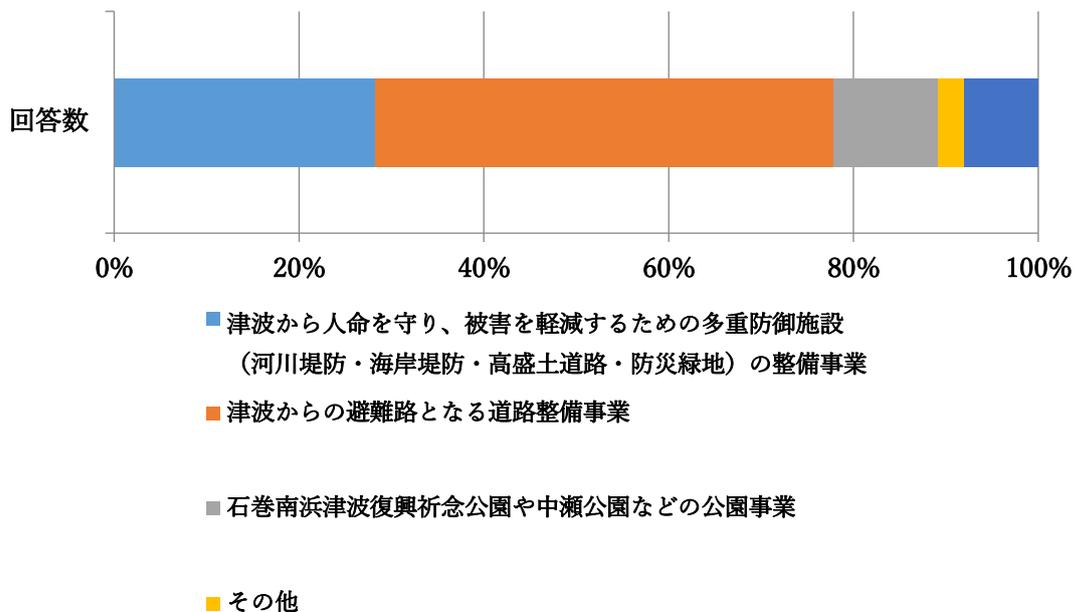


広報紙を見たことがある人が全体の約3割であるが、そのうちの8割以上は班回覧で見たというものである。広報紙を発行して、約2年（計8回発行）であるが、班回覧という周知方法としては、周知範囲は、ほぼ限界であると考えられる。より広く周知を図るためには、各戸配布、主要施設などへの設置個所を増加させることや新たな周知方法の検討が必要と考えられます。

問7 関心があった記事はどの項目でしたか。当てはまるものを全て選んでください。



問8 今後の掲載に当たり、特に知りたい事業内容はどの分野ですか。1つ選んでください。

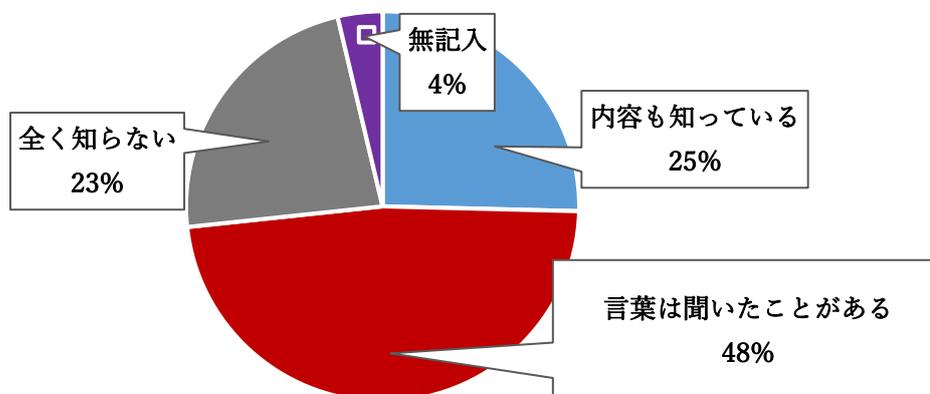


広報紙を見たことがある人のうち、復旧・復興事業の進捗状況の記事に関心があった（75.5%）ことから、広報紙の目的である復旧・復興事業を伝えるという目的に合致した傾向であることが伺えます。

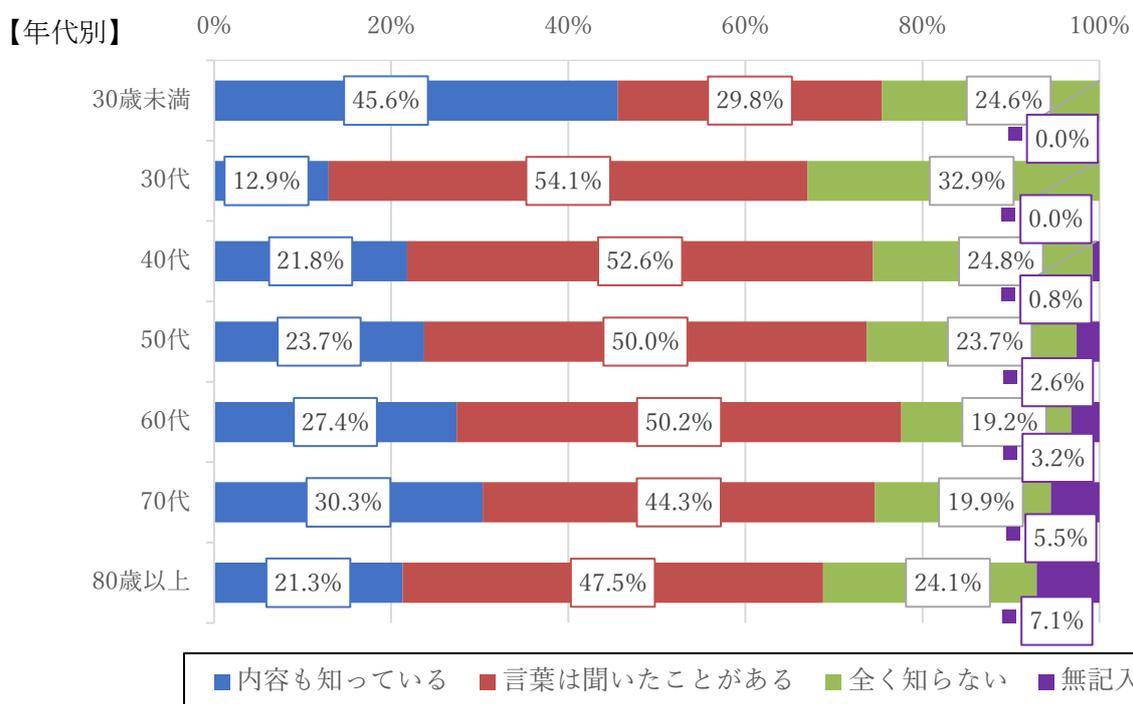
特に知りたい事業内容は、多重防御施設よりも道路整備事業の方が多く、日常生活やもしもの場合に自身が必要と感じている内容を求めていると考えます。また、その他意見では、立町商店街空洞化といった中心市街地での課題に関するものがありました。

2 男女共同参画について

問9 あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

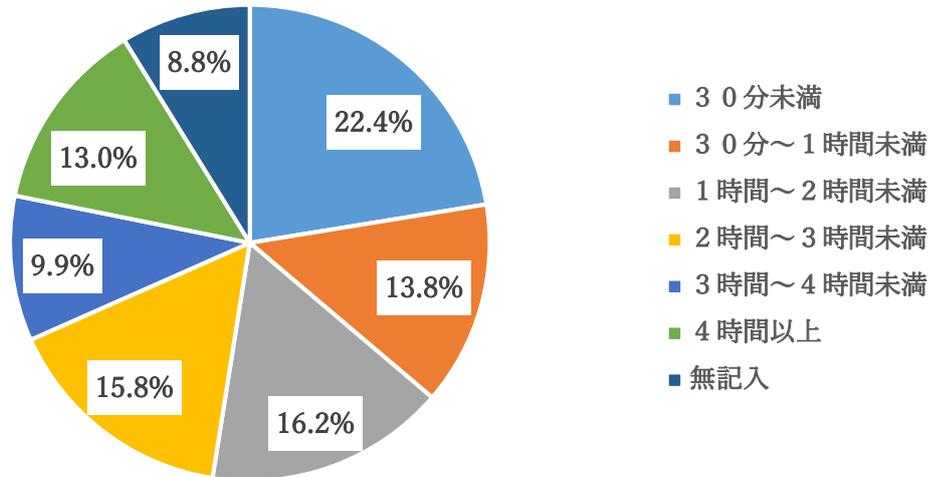


「男女共同参画社会」という言葉の認知度は、「言葉は聞いた事がある」が47.9%と最も多く、「内容も知っている」と合わせた認知度は、73.3%となっています。しかし、「全く知らない」と回答した方も23.0%となっているため、今後もさらに啓発に努めていく必要があると考えます。



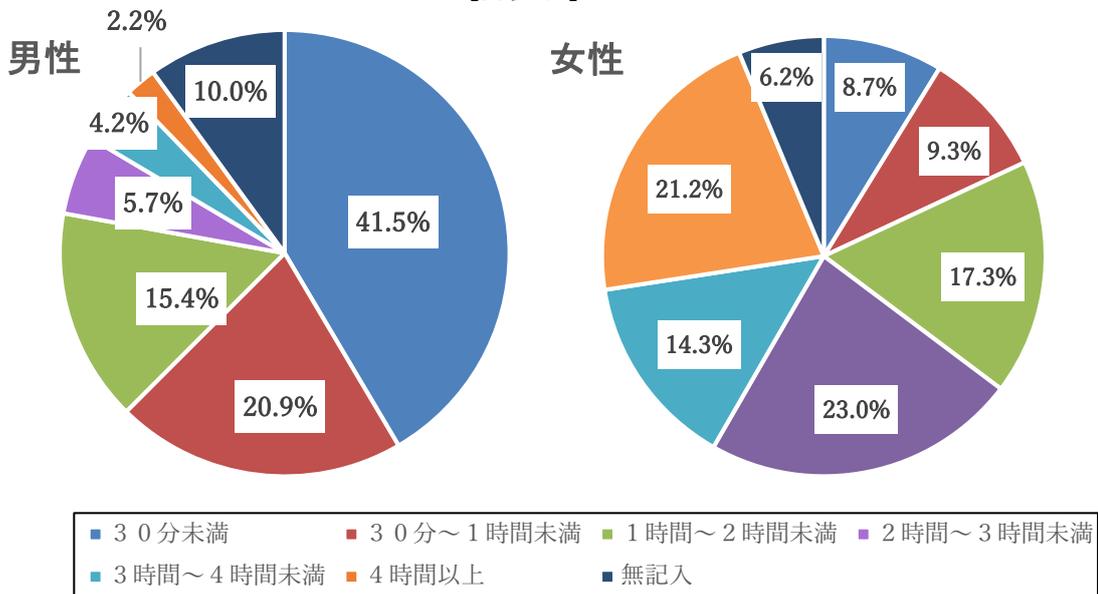
年代別にみると、「内容も知っている」が30歳未満で45.6%と最も多かったものの、30代では12.9%と、世代により認知度が大きく異なります。特にこれからを担う30代を対象とした取組を考えていく必要があると考えます。

問10 あなたの1日の家事（介護・看護・育児含む）時間はどのくらいですか。



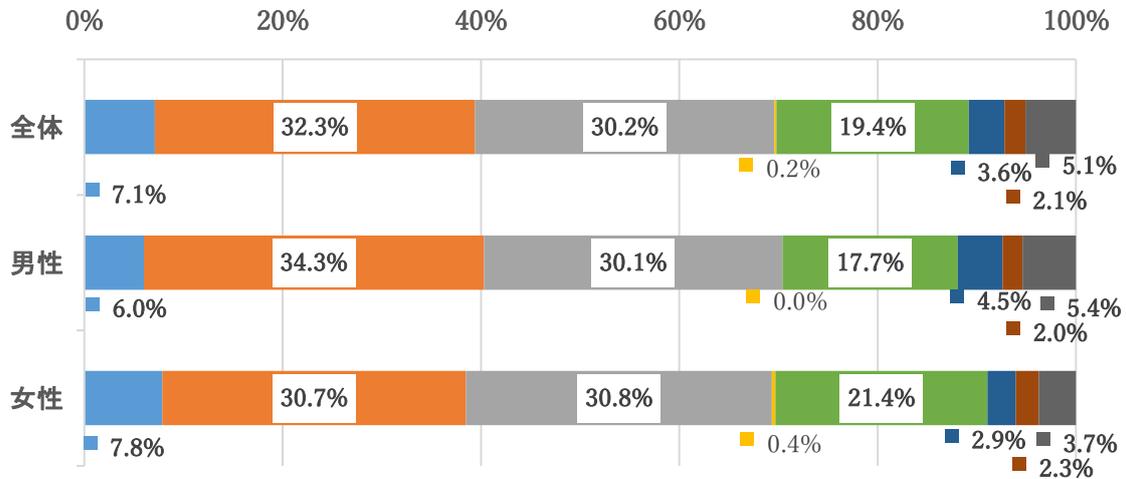
30分未満が22.4%と高く、次に多いのは1時間～2時間未満の16.2%となっています。多くの選択肢で10%台となっており、4時間以上と回答した人も13.0%となっているなど、個人差が大きいことがうかがえます。

【男女別】



家事時間は、1時間未満の女性が18.0%に対し、男性では62.4%となっています。逆に、3時間以上の家事時間を見ると、女性は35.5%に対し、男性は、6.4%と非常に偏っています。この結果から家事時間については、いまだに女性の方が長いことがうかがえます。

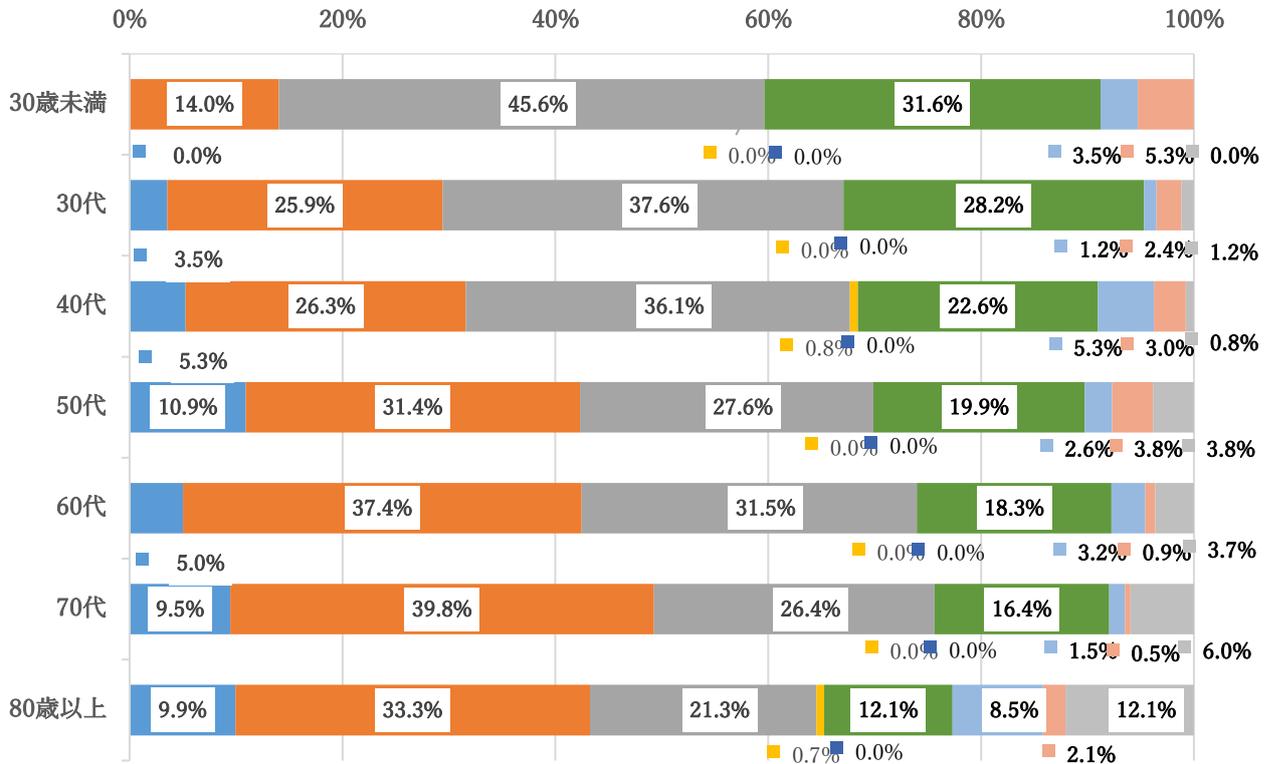
問11 家庭での育児や家事は、誰の役割としますか。(〇は1つ)



- 妻の役割
- 基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度
- 夫も妻も同様にを行う
- 基本的には夫の役割であり、妻はそれを手伝う程度
- 夫の役割
- どちらか、できる方がすればいい
- わからない
- その他
- 無記入

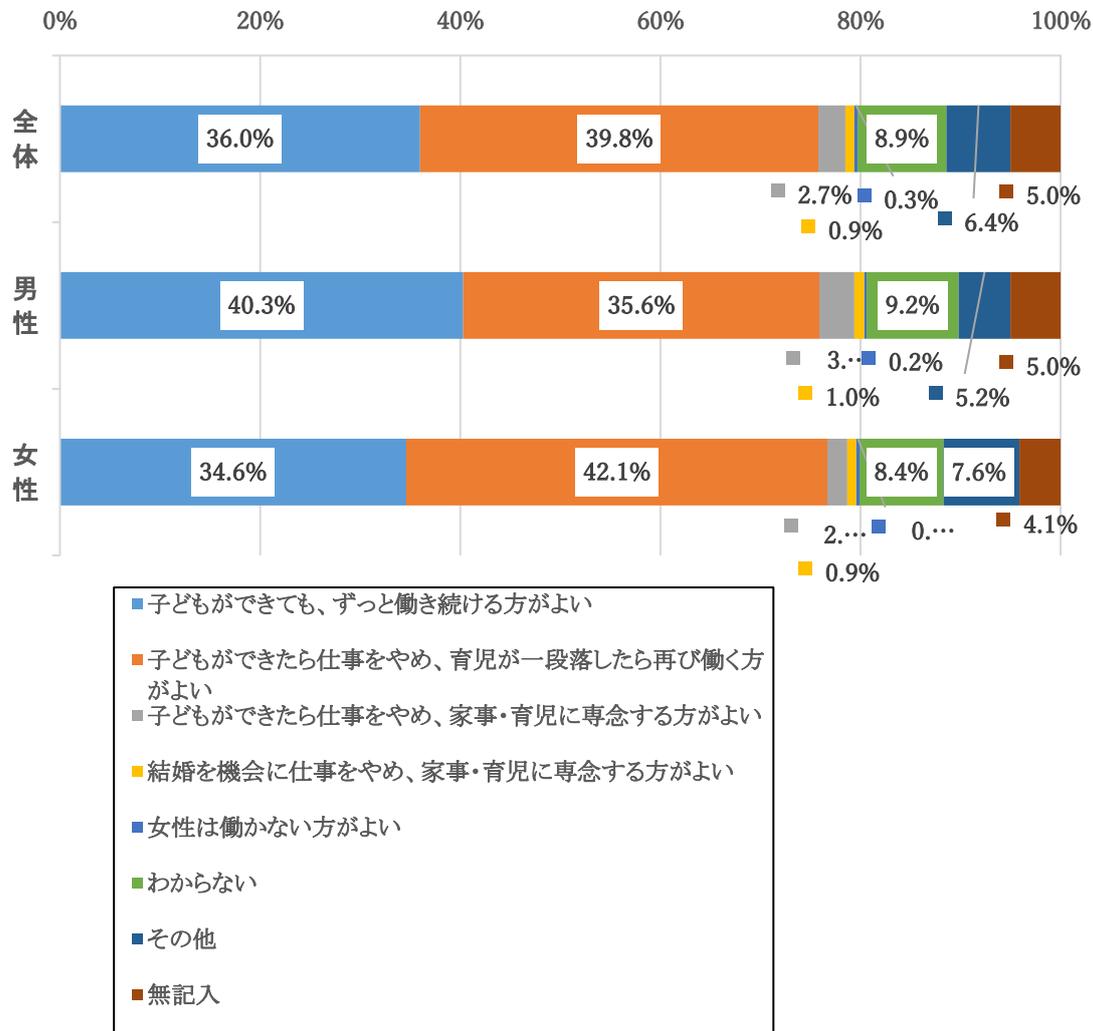
家庭での育児や家事の役割は、「妻の役割」「基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」が全体の39.4%と、未だに固定的役割分担意識（男性・女性という性別を理由に役割を固定的に分けること。）が根強く残っていることがうかがえ、また、「夫の役割」と答えた人は0%でした。しかし、「夫も妻も同様にを行う」と回答した方も30.2%となっていることから、性別を問わず役割を決める意識を醸成する必要があると考えます。

【年代別】



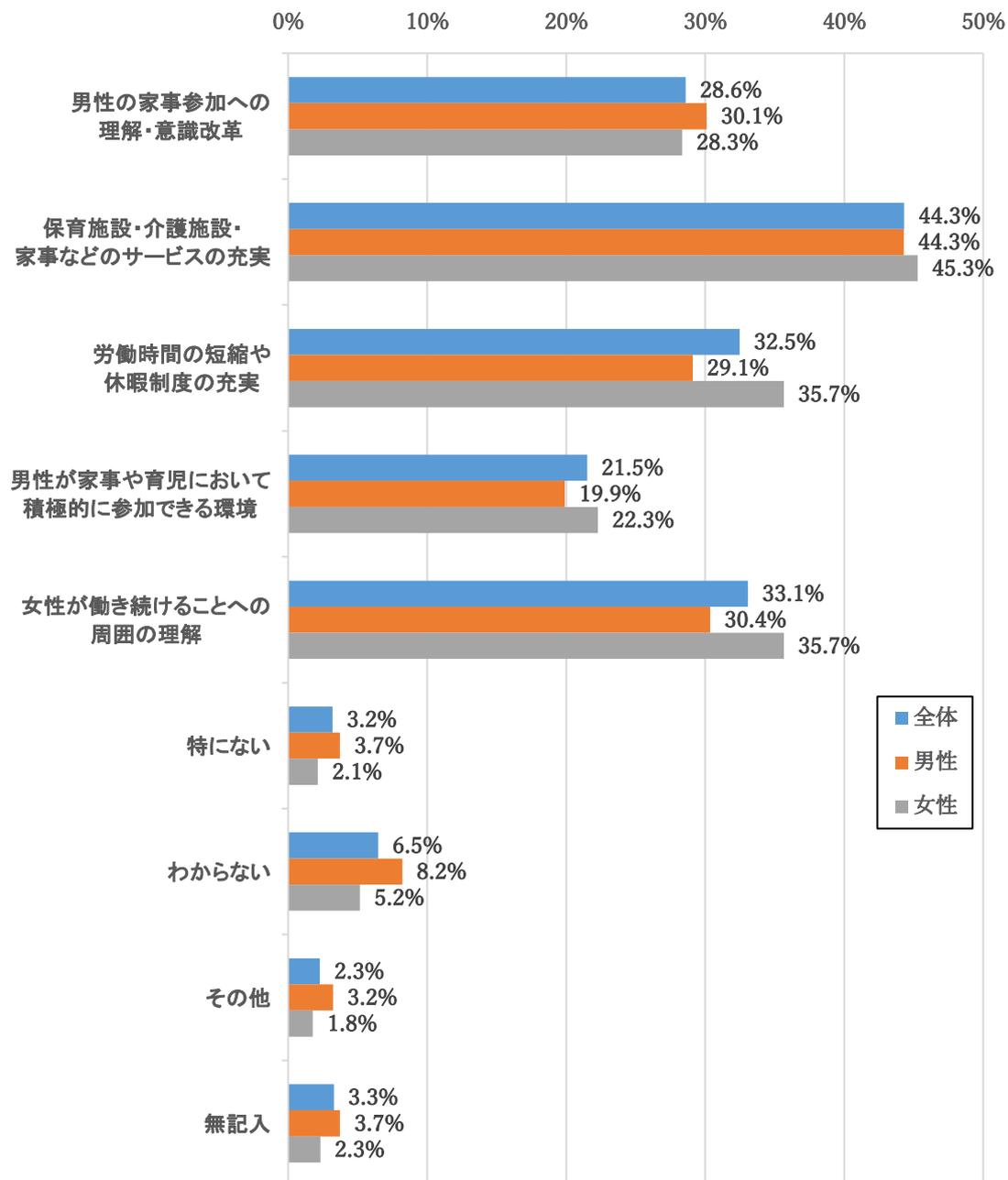
- 妻の役割
- 基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度
- 夫も妻も同様にを行う
- 基本的には夫の役割であり、妻はそれを手伝う程度
- 夫の役割
- どちらか、できる方がすればいい
- わからない
- その他
- 無記入

問 1 2 平成 2 7 年度には「女性活躍推進法」が施行され、石巻市でも女性活躍のための環境整備に向けて取組を実施しております。
女性が働くことについて、あなたはどうお考えですか。(〇は 1 つ)



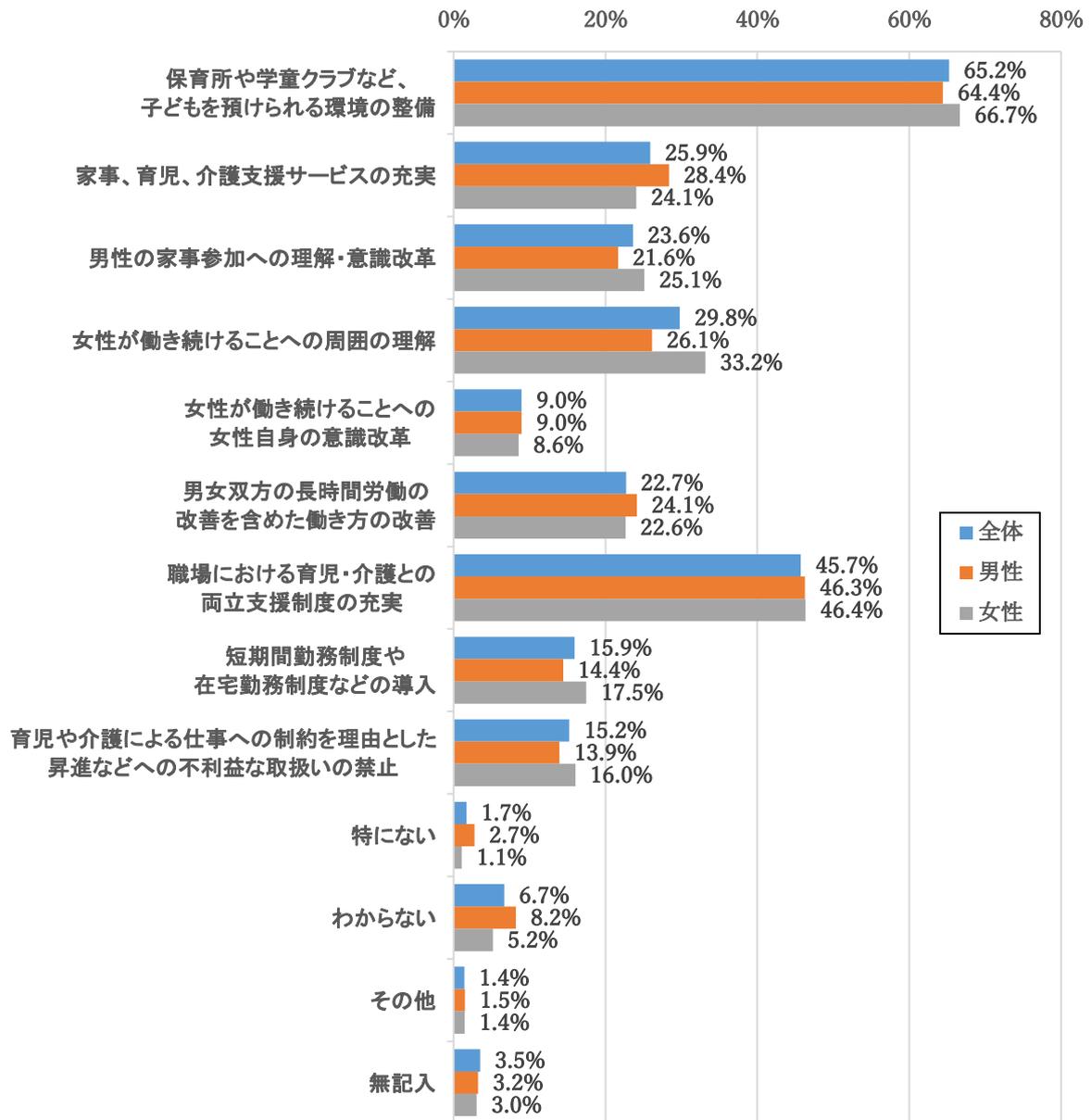
女性が働くことについては、男性では「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」との回答が 40.3%と最も多く、一方女性では「子どもができたなら仕事をやめ、育児が一段落したら再び働く方がよい」との回答が最も多く 42.1%でした。これにより、女性の就業については全体で 75.8%の方が賛成していることが分かり、また、働く意欲を持ちつつも出産後は子育てに意識を向けたい女性が多くいることもうかがえます。

問13 女性の活躍を推進するためには、家族・社会・職場などからどのような支援が必要と考えますか。(特にあてはまると思うもの2つに○)



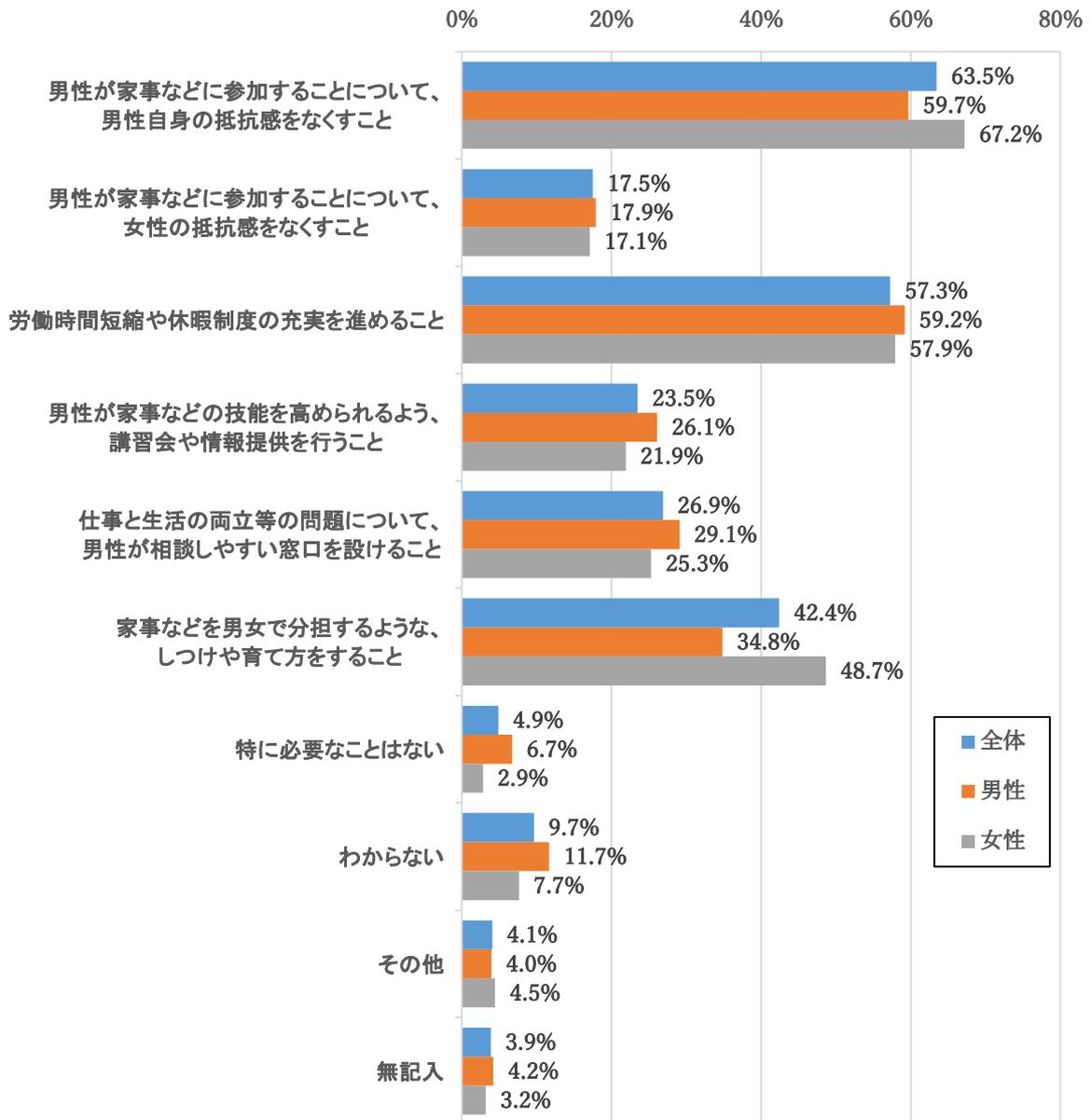
女性の活躍を推進するために必要なことは、「保育施設・介護施設・家事などのサービスの充実」の回答が全体の44.3%と最も多く、女性が活動に費やせる時間を確保するためのサービスの必要性を感じていることがうかがえます。また、「労働時間の短縮や休暇制度の充実」「女性が働き続けることへの周囲の理解」と回答した女性の割合がともに35.7%であり、男性よりも女性でその実感が強くなっていることが示されています。

問14 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。
(特にあてはまると思うもの3つに○)



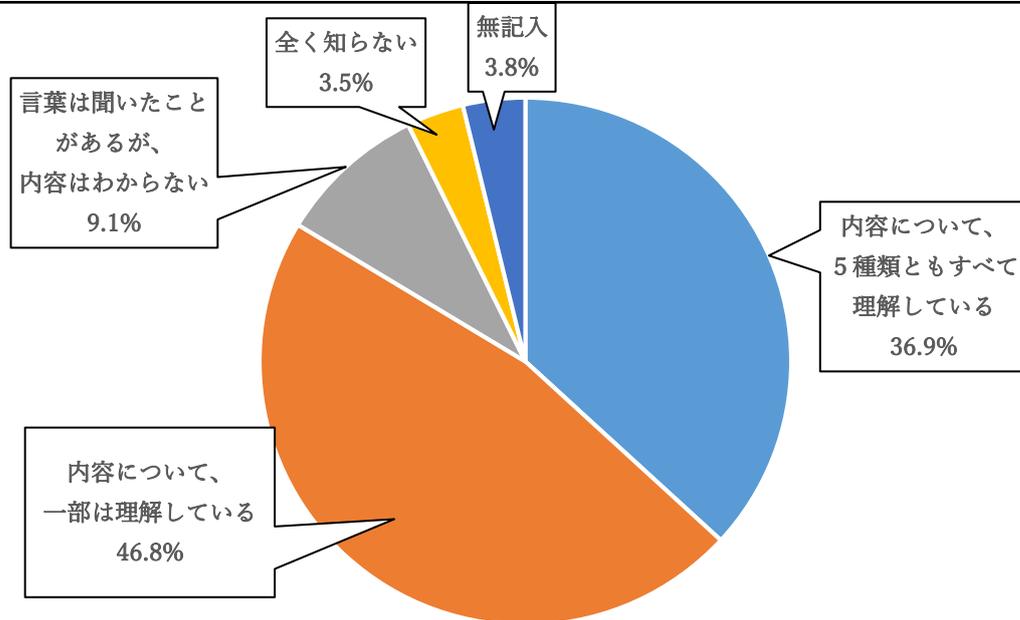
女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の回答が全体で65.2%と最も多く、男女問わず子育てにおける環境の整備を望んでいることがうかがえます。また、女性から「女性が働き続けることへの周囲の理解」を求める回答も多くあり、子どもの保育環境の充実に加え、女性の育児と仕事の両立への理解促進の取り組みも求められていることがうかがえます。

問15 あなたは今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(特にあてはまると思うもの3つに○)



男性が家事・子育てなどに積極的に参画していくためには、「男性自身の抵抗感をなくすこと」の回答が全体の63.5%と最も多くなっています。また、「家事などを男女で分担するような、しつけや育て方をすること」は、男性の34.8%に対し、女性は48.7%と13.9ポイントも多く感じていることから、男性自身の意識改革に加え、次世代に対しても、幼少期から男女共同参画意識の醸成に繋がる教育をおこなう必要性を感じていることがうかがえます。

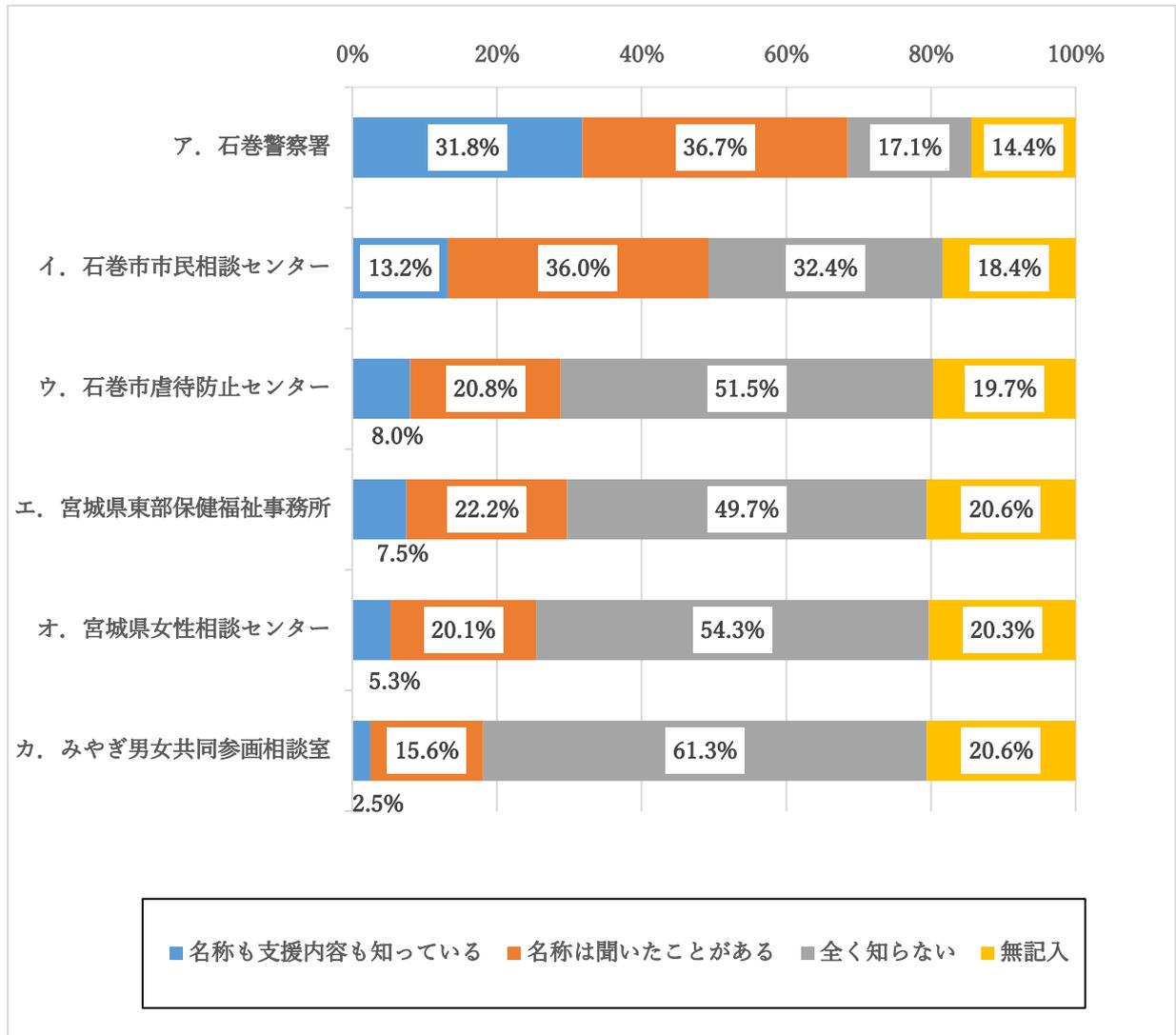
問16 あなたは、DV（配偶者等からの暴力）の内容について正しく理解していますか。（○は1つ）
 ≪DVの種類・身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力≫



DV（ドメスティック・バイオレンス）について正しく理解しているかとの回答では、「5種類ともすべて理解している」が36.9%、「一部は理解している」が46.8%となっています。身体的暴力だけがDVではないことを、正しく理解していただくため、より一層の啓発に努める必要があると考えます。

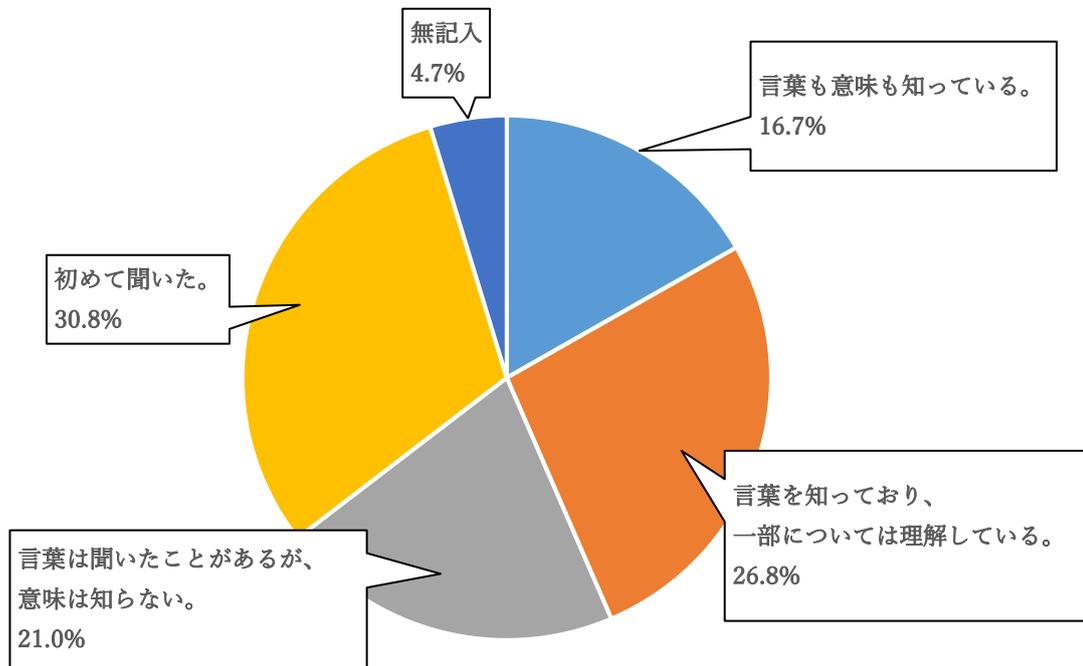
- 身体的暴力・・・殴る、蹴る、髪を引っ張り引きずり回す、タバコの火を押しつける。
- 精神的暴力・・・何でも従えという、人前で侮辱する、怒鳴りつける、外出を禁止する。
- 性的暴力・・・気が進まない性行為を強要する、避妊に協力しない。
- 社会的暴力・・・生活や人間関係に対して無視する、実家や友達の付き合いなどを制限する。
- 経済的暴力・・・生活費を渡さない、外で働くことを妨害する、洋服などを買わせない。

問17 あなたは、セクシャル・ハラスメントまたはDV（配偶者等からの暴力）被害にあった時の相談窓口（ア～カ）を知っていますか。ア～カのそれぞれについてお答えください。（それぞれ〇は1つ）
また、ア～カ以外の相談窓口を知っている方は、その他の欄にご記入ください。



セクシャル・ハラスメントまたはDVの相談窓口の認知度は、身近にある石巻警察署でも「名称も支援内容も知っている」は全体で31.8%となっています。また、石巻市市民相談センターは13.2%、石巻市虐待防止センターでは8.0%と、かなり認知度が低く、今後も相談窓口の周知徹底を図る必要があると考えます。

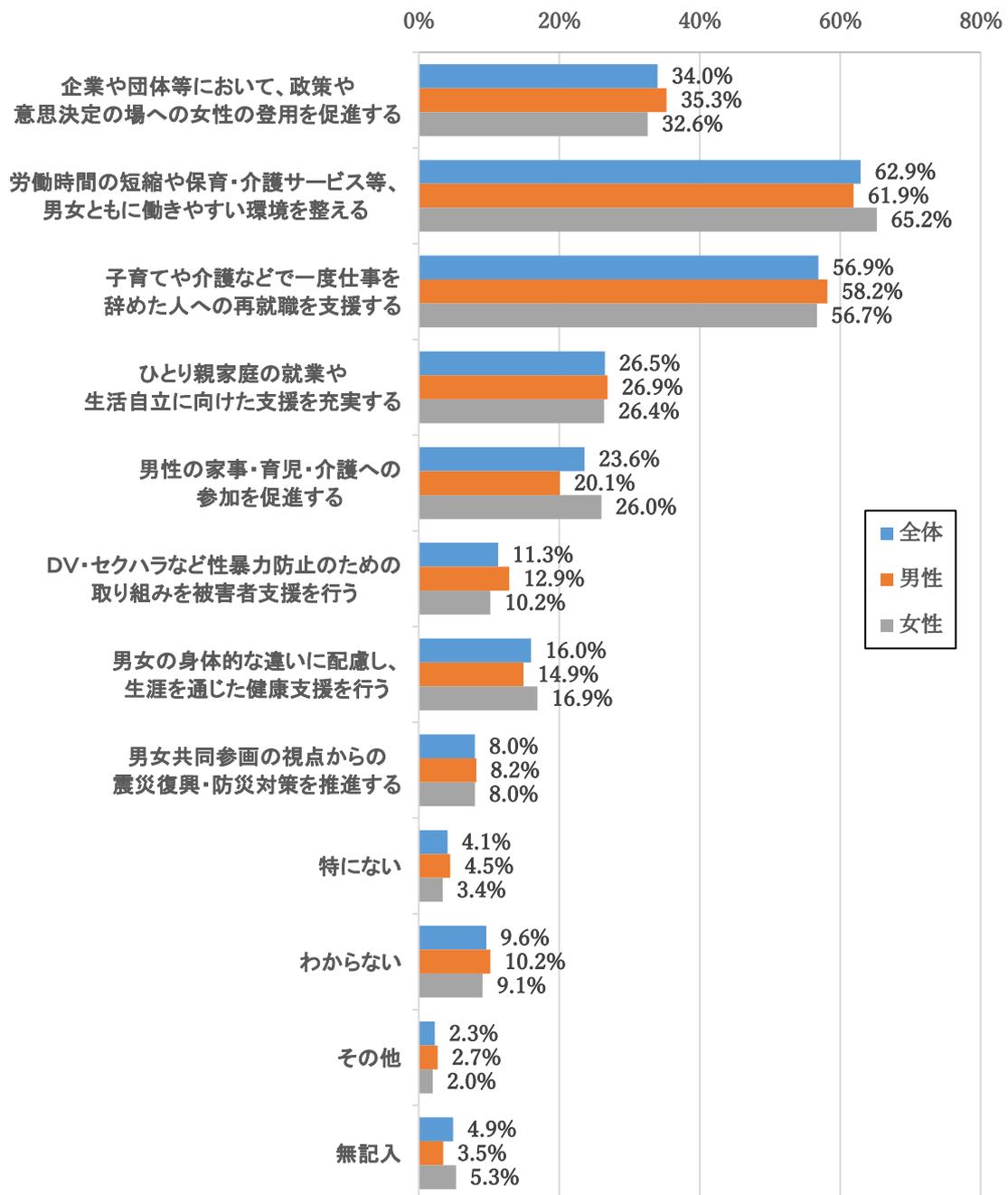
問18 「性的マイノリティ※1（性的少数者）」または「LGBT※2」という言葉を知っていますか。（〇は1つ）



性的マイノリティの認知度については、「初めて聞いた」が30%を超えており、続いて「言葉を知っており、一部については理解している」と答えた人が26.8%となっています。

性的マイノリティやLGBTなどの認識については、「初めて聞いた」と「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」とをあわせると51.8%となり、さらに理解を深めていくための方策が必要であると考えます。

問19 男女共同参画社会を実現するために、今後、石巻市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。(特に必要だと思うものを3つに〇)

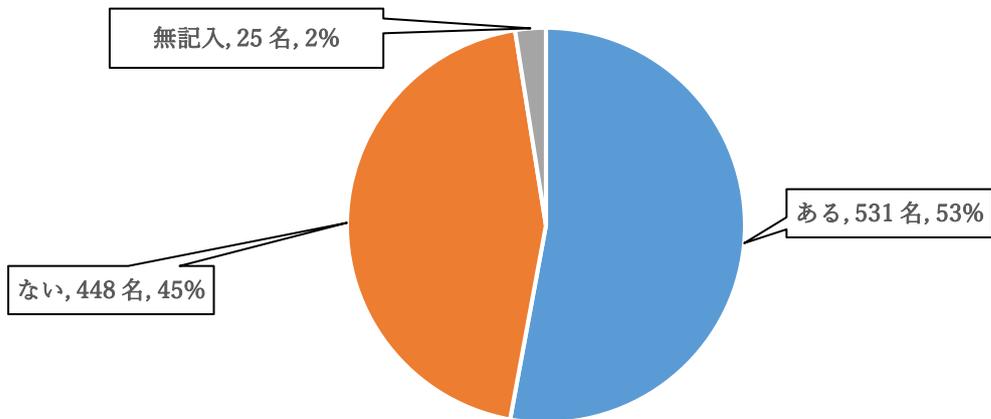


男女共同参画社会を実現するために、市が特に力を入れていくべきこととして、「労働時間の短縮や保育・介護サービスなど、男女ともに働きやすい環境を整える」が全体で62.9%となっており、男女とも高い数値となっています。

また、一度仕事を辞めた人への再就職の支援に力を入れていくべきと答えた方が、若干ですが男性が多くなっています。「男性の家事・育児・介護への参加を促進する」については女性が男性より5.9ポイントも高く、男女間での意識のずれが感じられます。

3 日常の移動交通手段について

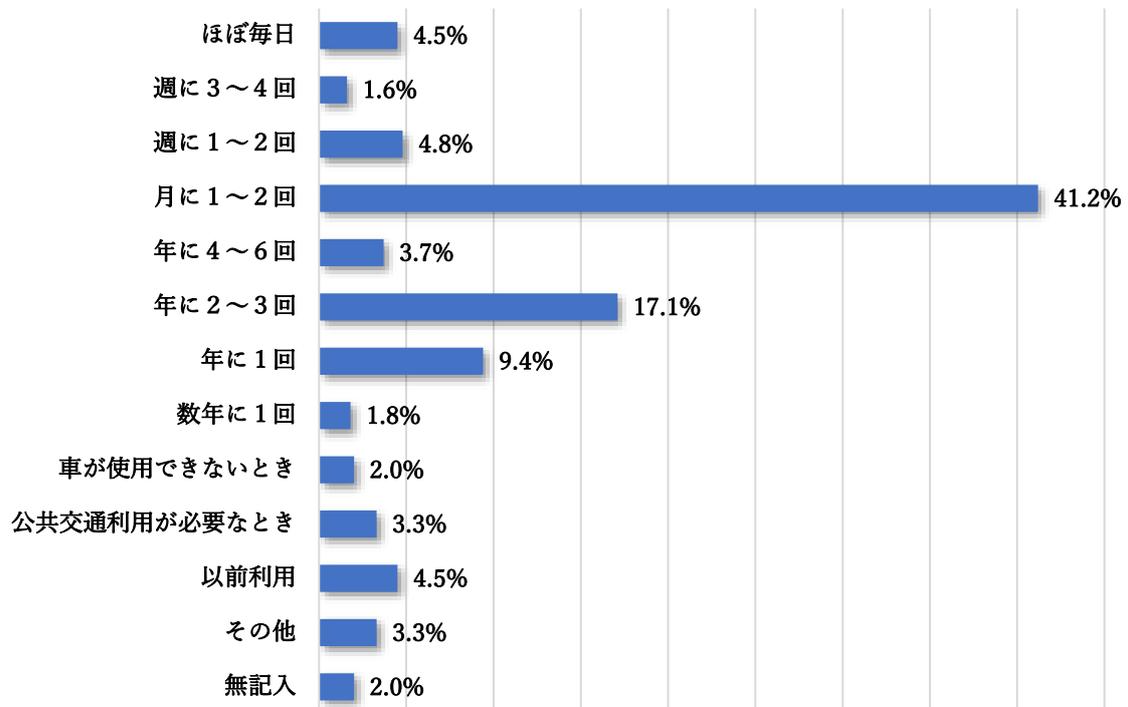
問 20 あなたは、公共交通機関を利用したことがありますか。



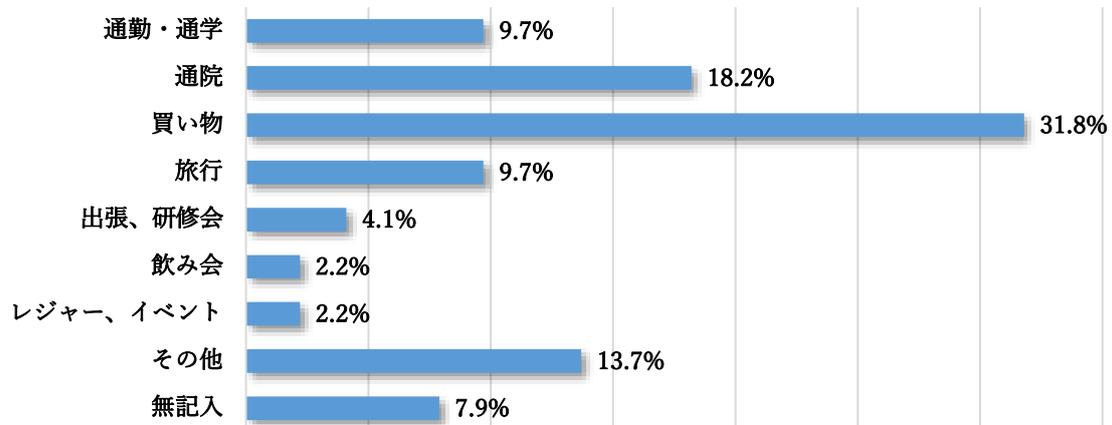
問 21 問20で「1. ある」と回答した方にお聞きします。

① 利用する頻度はどれくらいですか。また、②利用する主たる用途は何ですか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。

① 利用頻度



② 主たる用途



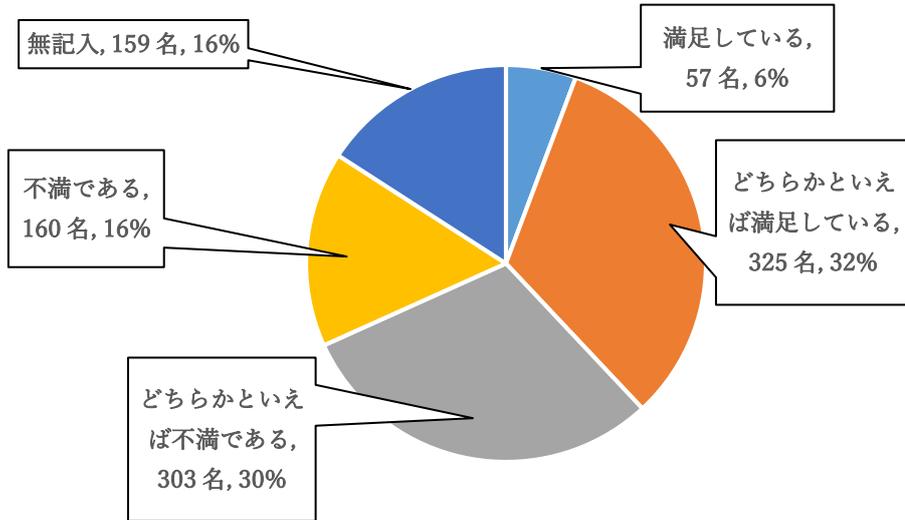
公共交通機関は、52.9%の方に利用されている状況ではありますが、一方で利用されていない方も44.6%であり、公共交通を利用している割合としてはあまり高くない結果となっております。

利用する方の頻度としては、「月に1～2回」が41.2%で最も多く、次いで「年に2～3回」「年に1回」といった状況であり、週に1回以上利用する方は、10.9%と低い結果でありました。

利用する用途としては、「買い物」が31.8%、「通院」が18.2%、「通勤・通学」が9.7%で、日常の利用が約6割となりました。

また、年に数回程度の利用の方は、「旅行」「出張」といった回答が多く見られ、遠出する際に利用される傾向がうかがえました。

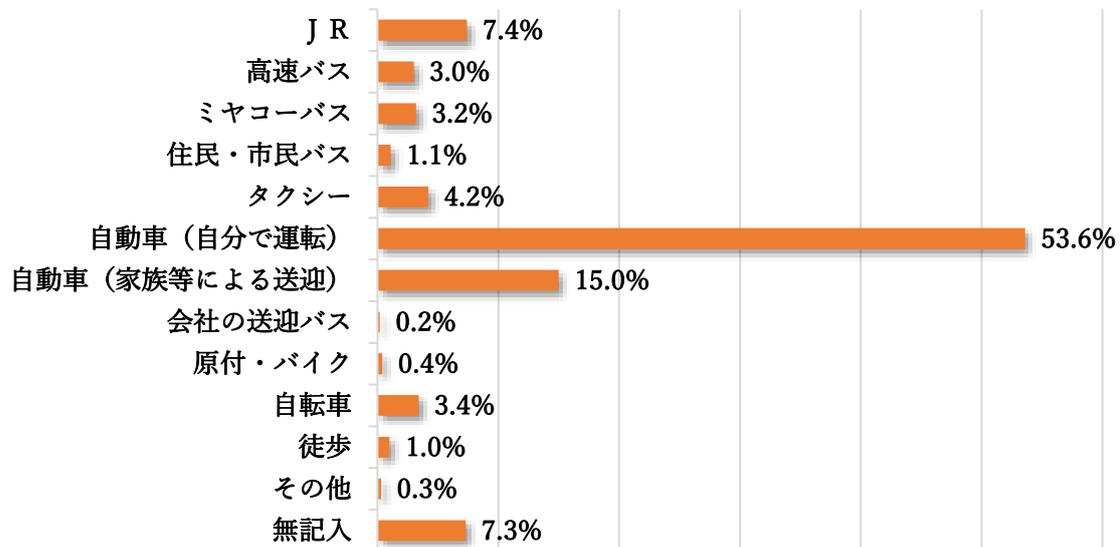
問 22 あなたは、市外との公共交通機関の整備について満足していますか。
当てはまるものを1つ選んでください。



市外への公共交通機関の整備については、「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計が38.1%で、前回調査（平成21年度）に比べ6.3%増となっています。これは、JR仙石東北ラインの開通、JR仙石線石巻あゆみ野駅の供用開始や、三陸自動車道石巻女川インターチェンジの供用開始等により、利便性の向上が図られたためと考えられます。

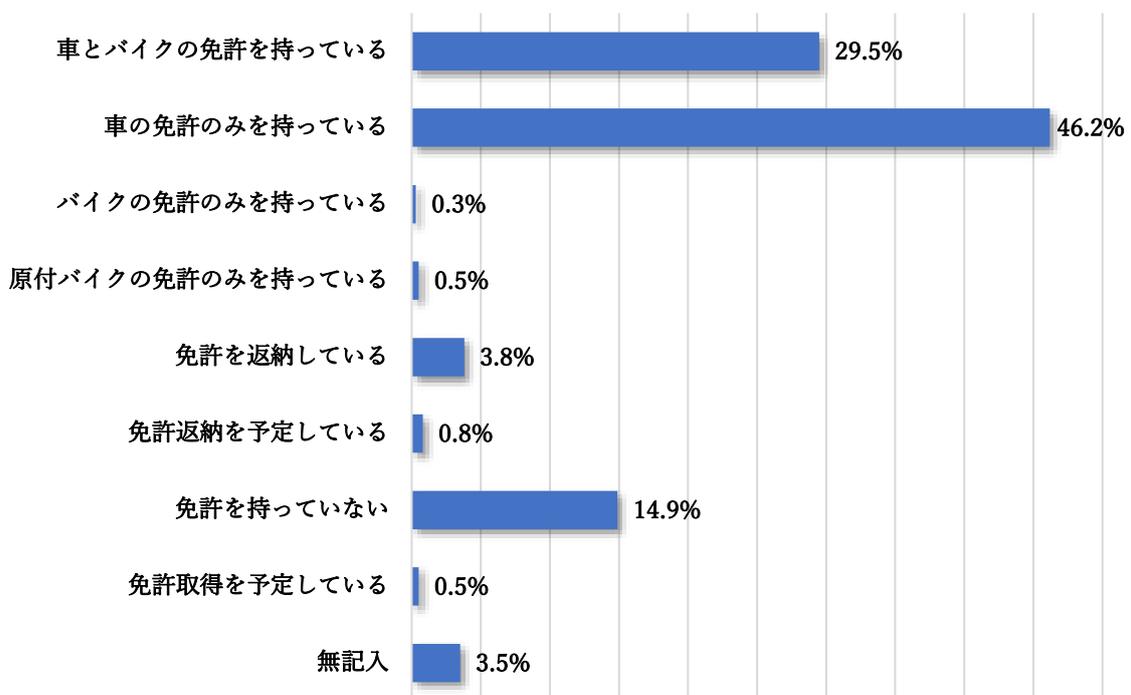
ただし「どちらかといえば不満である」「不満である」の合計が46.1%となっており、前回調査（平成21年度）に比べ11.4%改善が図られているものの、依然として高い割合となっていることから、さらなる整備が求められているという結果となりました。

問 23 あなたが普段移動する際、もっとも多く利用する移動手段は何ですか。
 当てはまるものを1つ選んでください。

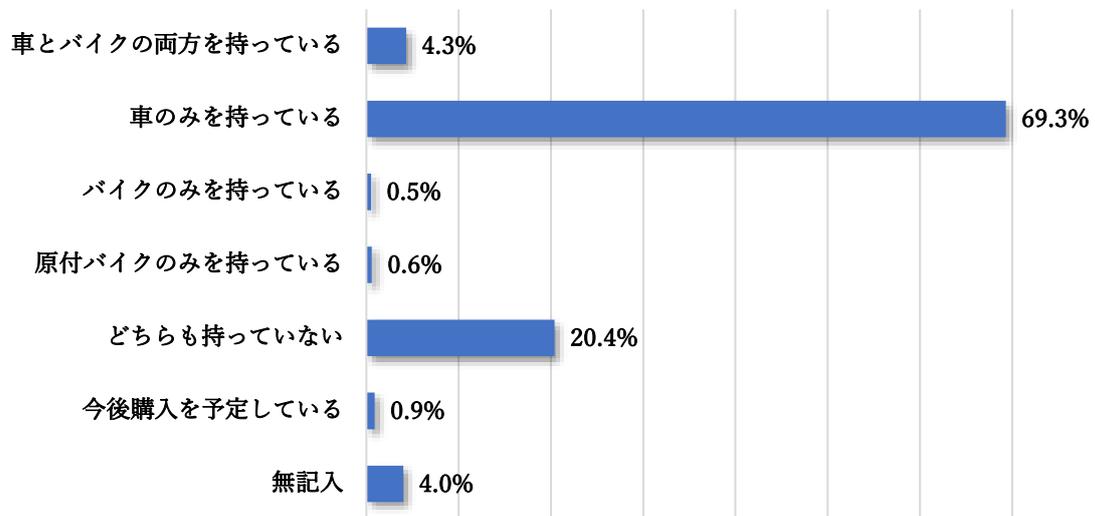


普段の移動に関しては、家族等による送迎も含め、68.6%の方が自動車による移動という結果になりました。JR、バス等の公共交通機関の利用は、14.7%と低く、自動車への依存度が高い状況であり、公共交通の利用促進を図る必要があると思われます。

問 24 あなたは、自動車等の運転免許を所持していますか。

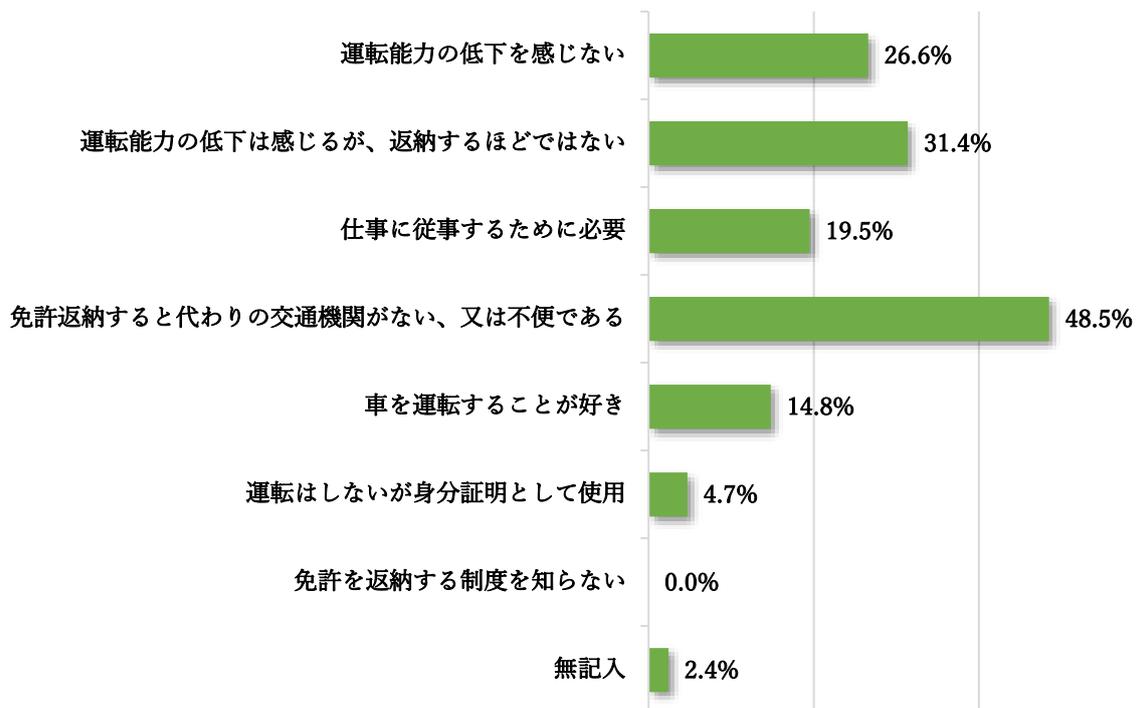


問 25 あなたは、日常の移動に使用できる自動車等を所持していますか。
当てはまるものを1つ選んでください。



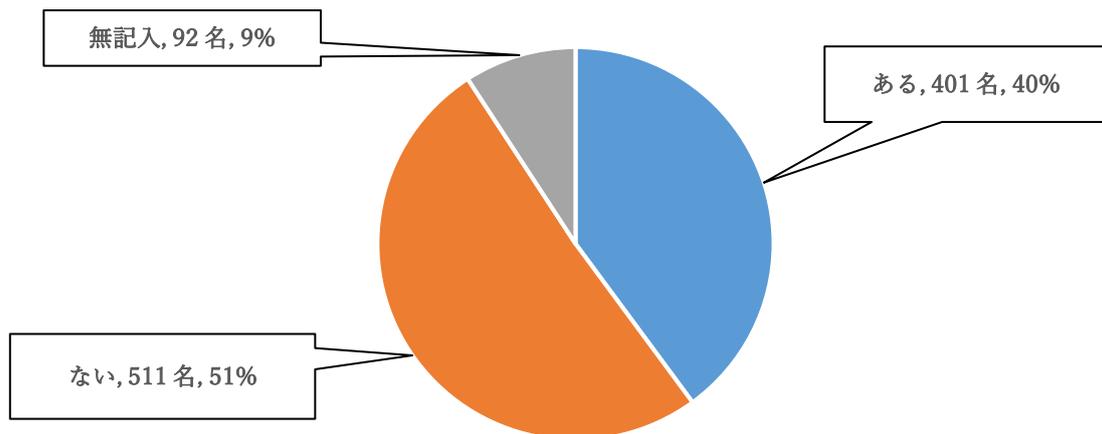
76.5%の方が車、バイク、原付バイクの免許を保有しており、その95%が日常移動に使用できる自動車等を保有している結果となりました。このことから、日常移動については、マイカー依存が高くなっていることがうかがえます。

問 26 運転免許を所持している70歳以上の方にお聞きします。免許を返納しない理由はどのような理由ですか。当てはまるものを全て選んでください。

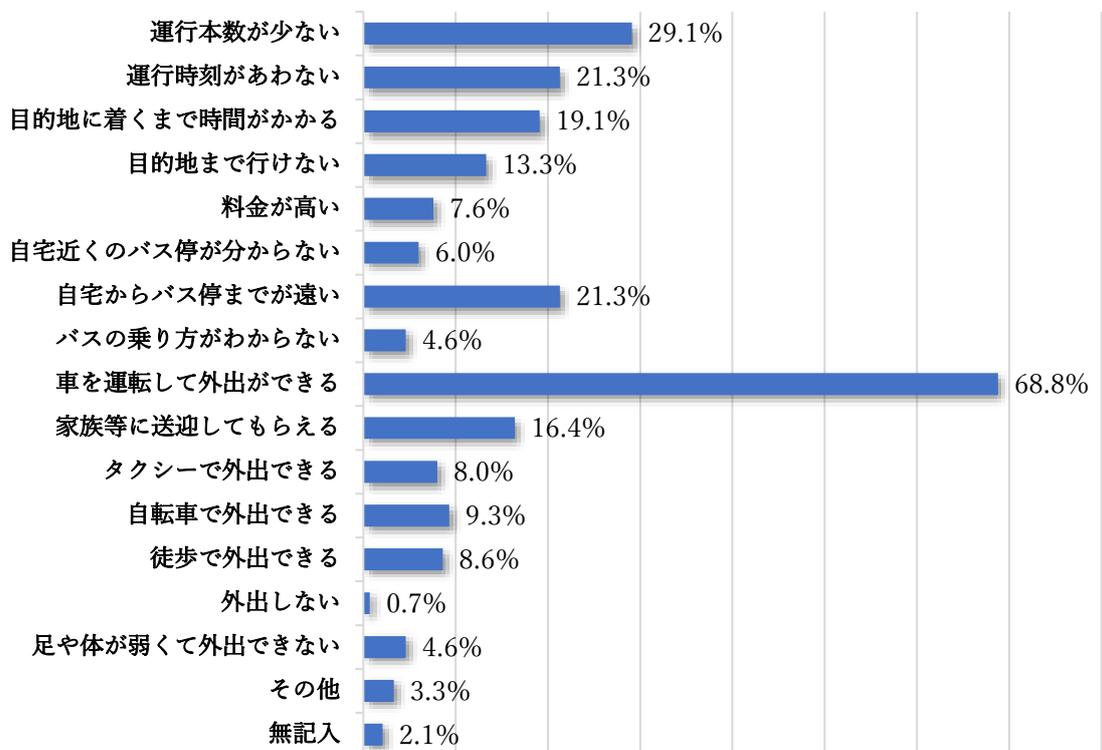


免許返納しない理由として、「代わりの交通機関がない、不便である」との回答が最も多くあげられました。一方で、58.0%の方が運転能力の低下による免許返納の必要性を感じていないといった結果でありました。「代わりの交通機関がない、不便である」と回答した方の中にも免許返納するほどではないと答えている方が、半数以上いることから、免許返納について意識していない状況であることがうかがえます。

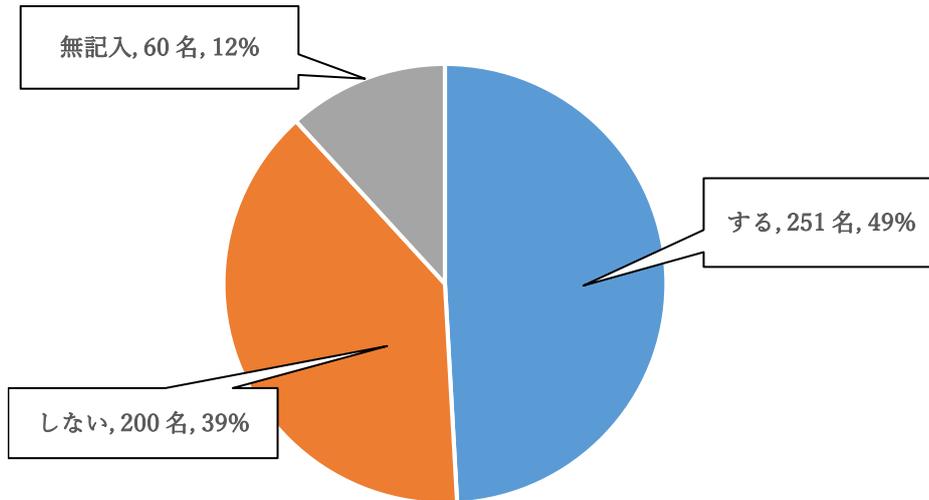
問 27 バス交通についてお聞きします。あなたは、バス交通（路線バス・住民バス等）を利用したことがありますか。



問 28 問27で「2. ない」と回答した方にお聞きします。バス交通を利用しない理由として、当てはまるものを全て選んでください。



問 29 利用しない理由が改善されたときは利用しますか。

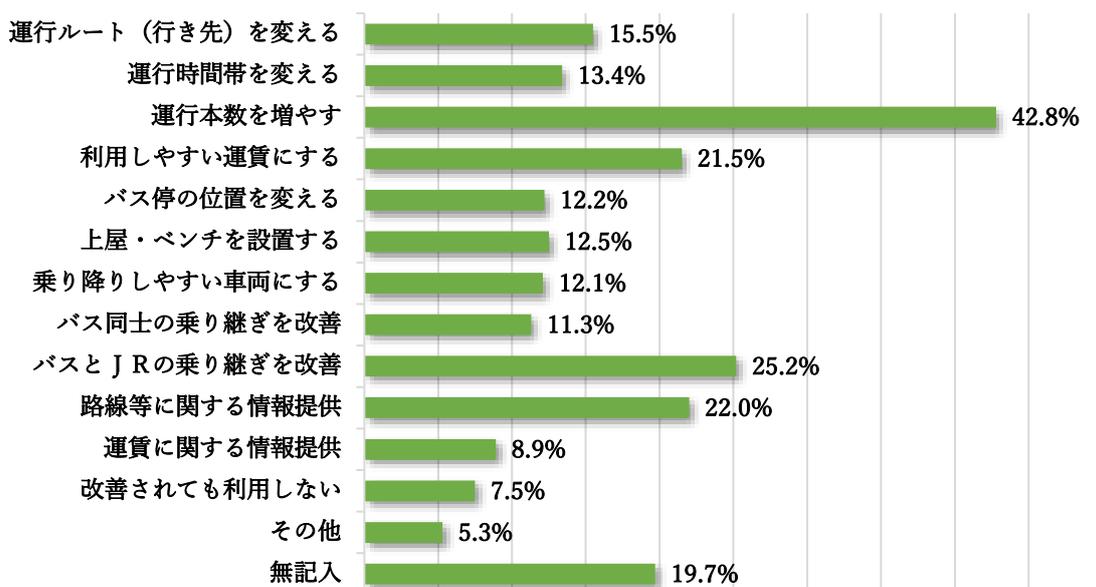


バス交通の利用は、50.9%が「ない」と回答されており、半数以上の方がバスを利用したことがないといった結果になりました。

利用したことがない理由としては、「車を運転して外出」が68.8%で最も高く、バスに関する理由では、「運行本数が少ない」「運行時刻が合わない」「バス停まで遠い」といった回答でした。

利用しない理由が改善された場合には、「利用する」との回答が49.1%であり、利用者増加のための改善策について協議が必要と考えます。

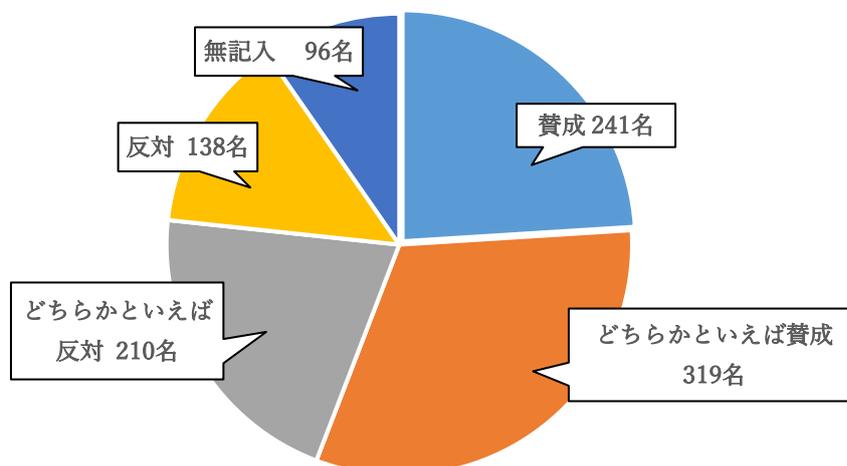
問 30 バス利用者を増加させるためにはどのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。



バス利用者の増加策としては、「運行本数を増やす」が最も多く、次いで、「バスとＪＲの乗り継ぎを改善」「路線等に関する情報提供」「利用しやすい運賃にする」といった回答が多く、バス運行ダイヤの充実、運賃の引き下げ、バス運行の周知・広報が必要と考えられていることがうかがえます。

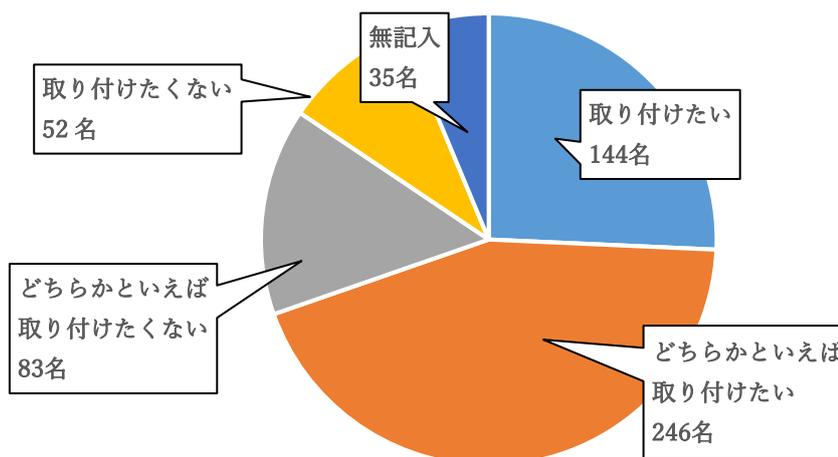
4 ご当地ナンバープレートの導入について

問 3 1 現在、石巻市域の自動車には「宮城」ナンバーが交付されていますが、「仙台」や「平泉」など、ご当地ナンバーが全国で増えています。石巻地域で導入することについてどう思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。



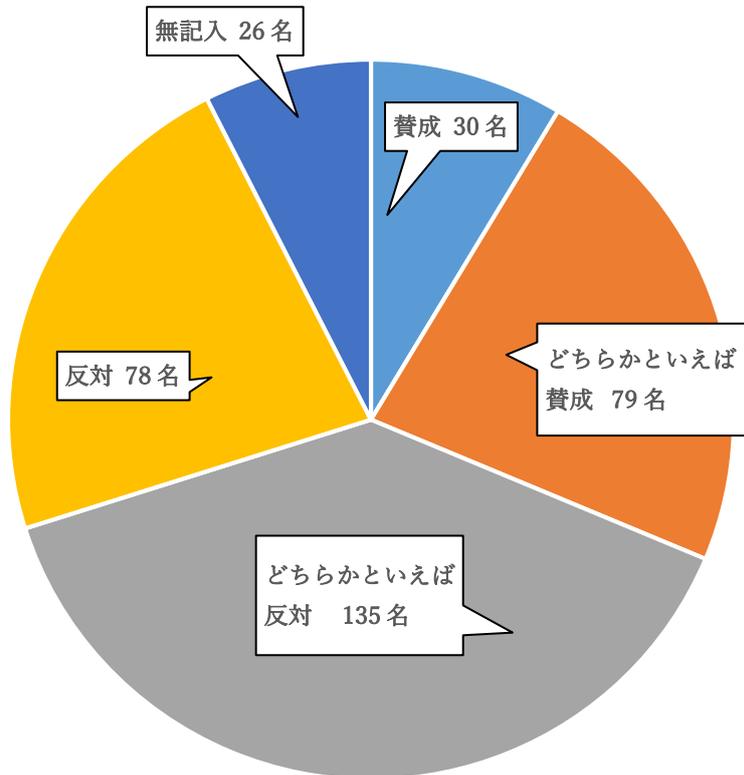
導入については、「どちらかといえば賛成」が319名（31.8%）で最も多く、次いで「賛成」が241名（24.0%）となっております。また、「反対」「どちらかといえば反対」も併せて348名（34.6%）あり、導入に賛成する割合が反対を上回る結果となりました。

問 3 2 問31で「1. 賛成」または「2. どちらかといえば賛成」を選んだ方
ご当地ナンバーを導入した場合、「地方版図柄入りナンバープレート」を選択することができます。あなたは、「地方版図柄入りナンバープレート」を取り付けることについてどう思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。



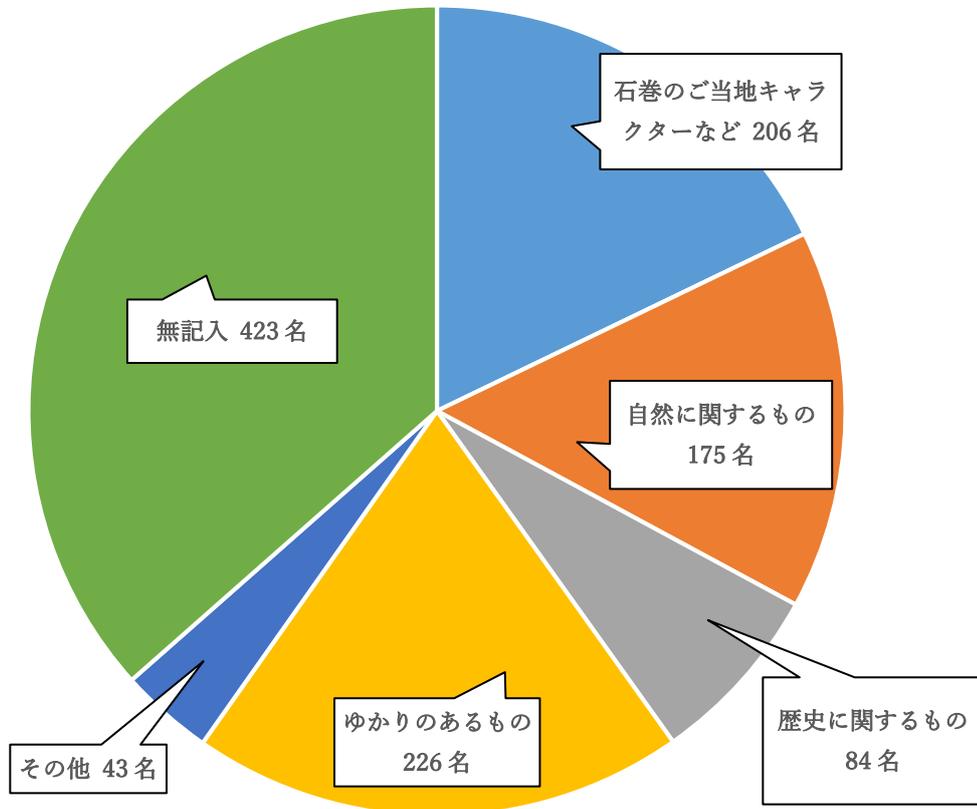
導入について、「賛成」または「どちらかといえば賛成」を選んだ方のうち、「図柄入りナンバープレート」を選択し、「取り付けたい」と回答している方が約7割（390名）あり、取り付けに対する希望の高さが伺える結果となりました。

問 33 問 31で「3.どちらかといえば反対」または「4.反対」を選んだ方
 現在、原付バイク（原動機付自転車）のナンバープレートは市で作成・交付し
 ています。イラスト等がデザインされたオリジナルナンバープレートは全国
 の4分の1以上の市区町村で導入済みです。石巻市で導入することについてど
 う思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。



導入について「反対」または「どちらかといえば反対」を選んだ方は、原付バイク（原動機付自転車）のオリジナルナンバープレートの導入についても6割（213名）を超える方が「反対」と回答しており、導入に必要性を感じないとする意見が過半数を占めました。

問 34 図柄のデザインは、どのようなものが良いですか。※複数選択可（図柄のアイデアなどがあれば【 】内に記入してください。）



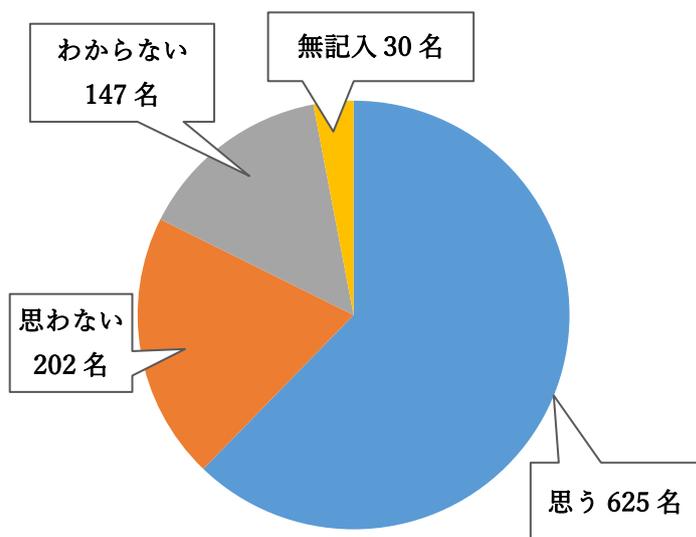
図柄のデザインは、ご当地キャラクター（いしぴょん・仮面ライダー他）、自然（日和山・北上川他）、歴史及びゆかりのあるもの（サンファン号・川開き祭り他）多数のアイデアがありました。その一方で「余計な経費がかかるのであれば導入は反対」、「そういうのにお金をかけないでほしい」、「デザインはいらない」といった必要性を感じないという意見も複数寄せられました。

問 35 ご当地ナンバープレート導入について、ご意見等がありましたら記入してください。

賛成、反対様々な意見をいただきました。
特に多かったのが、「税金の使い方」についてであり、「子供や老人」、「生活困窮者」、「復興事業」、「人口減少の歯止め」等、優先すべきことが他にある。又は「もう少し市が落ち着いてからでも良い」という意見をいただきました。導入の是非については、各種事業の進捗状況や時期等を含め検討する必要があると考えます。

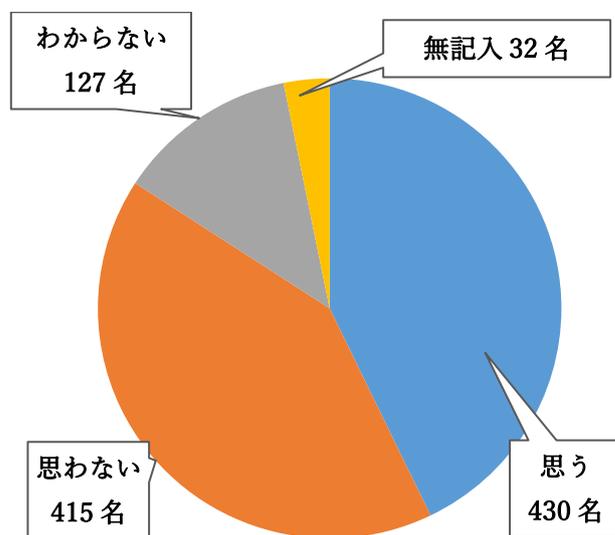
5 石巻市の環境について

問 36 多くの自然や生物に恵まれていると思いますか。1つ選んでください。



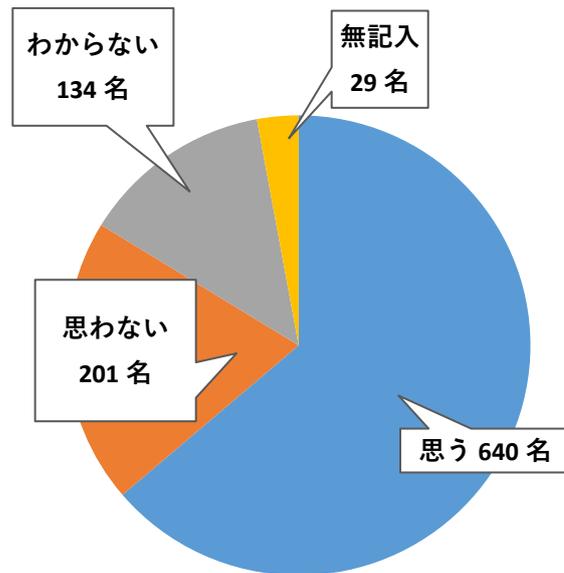
自分が住んでいる地域の環境について、多くの自然や生物に恵まれていると思う市民が多い結果となりました。今後は、生物多様性地域戦略を策定し、自然や生物の保全に努めていきます。

問 37 公園や道路、宅地などの緑が豊かだと思いますか。1つ選んでください。



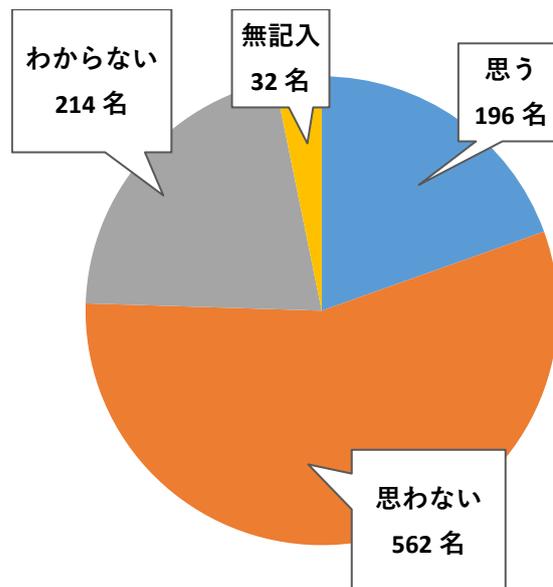
公園や道路、宅地などの緑が豊かだと思えない市民がほぼ半数近くです。今後も市・市民・事業者が連携し、緑の保全活動を進めていきます。

問 38 田や畑の農地の緑が豊かだと思えますか。1つ選んでください。



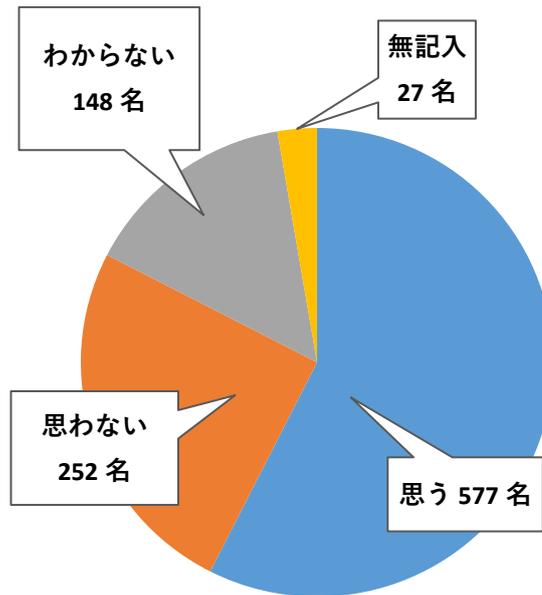
田や畑の農地の緑が豊かだと思っている市民が多い結果となりました。

問 39 街並みの美しいところだと思えますか。1つ選んでください。



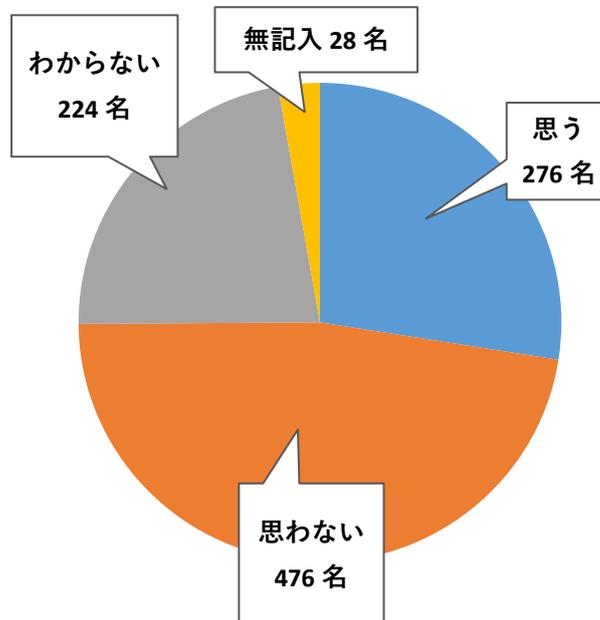
街並みの美しいところだと思えない市民が多い結果となったことから、石巻市の街並みを誇れるものとなるよう、環境市民の育成や市・市民・事業者が連携した取り組みを進めていきます。

問 40 空気がきれいだと思いますか。1つ選んでください。



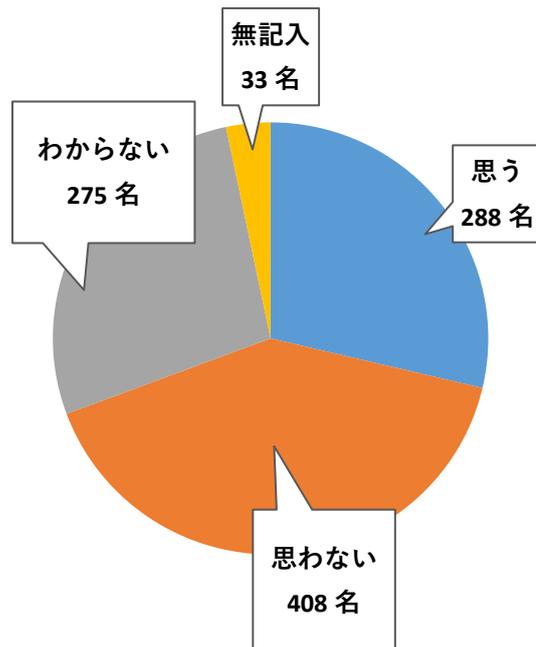
自分が住んでいる地域の環境について、空気がきれいだと思っている市民が多い結果となりました。

問 41 河川の水がきれいだと思いますか。1つ選んでください。



河川の水がきれいだと思えない市民が多い結果となったことから、石巻市の河川の水がきれいだと思えるものとなるよう、環境市民の育成や市・市民・事業者が連携した取り組みを進めていきます。

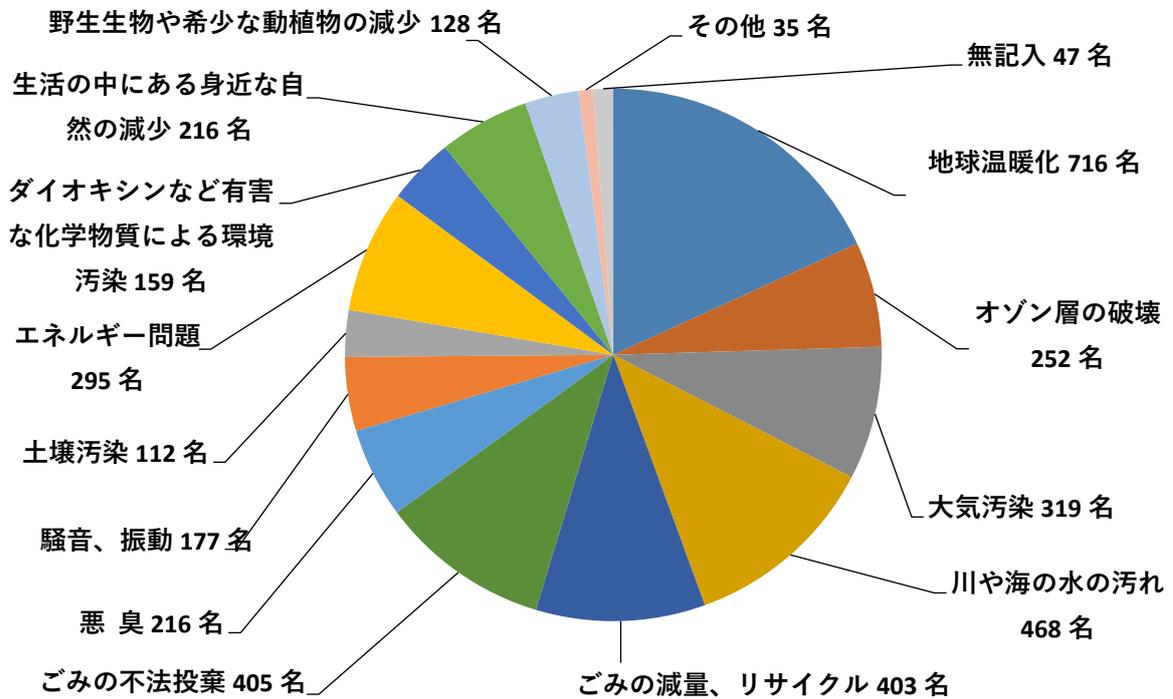
問 4 2 海の水がきれいだと思いますか。1つ選んでください。



海の水がきれいだと思えない市民が多い結果となったことから、環境市民の育成や市・市民・事業者が連携した取り組みを進めていきます。

〔関心のある環境問題について〕

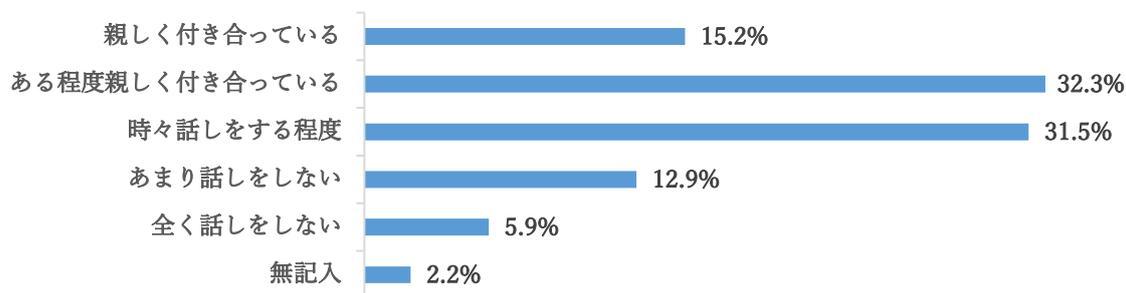
問 43 あなたが関心のある環境問題を全て選んでください。



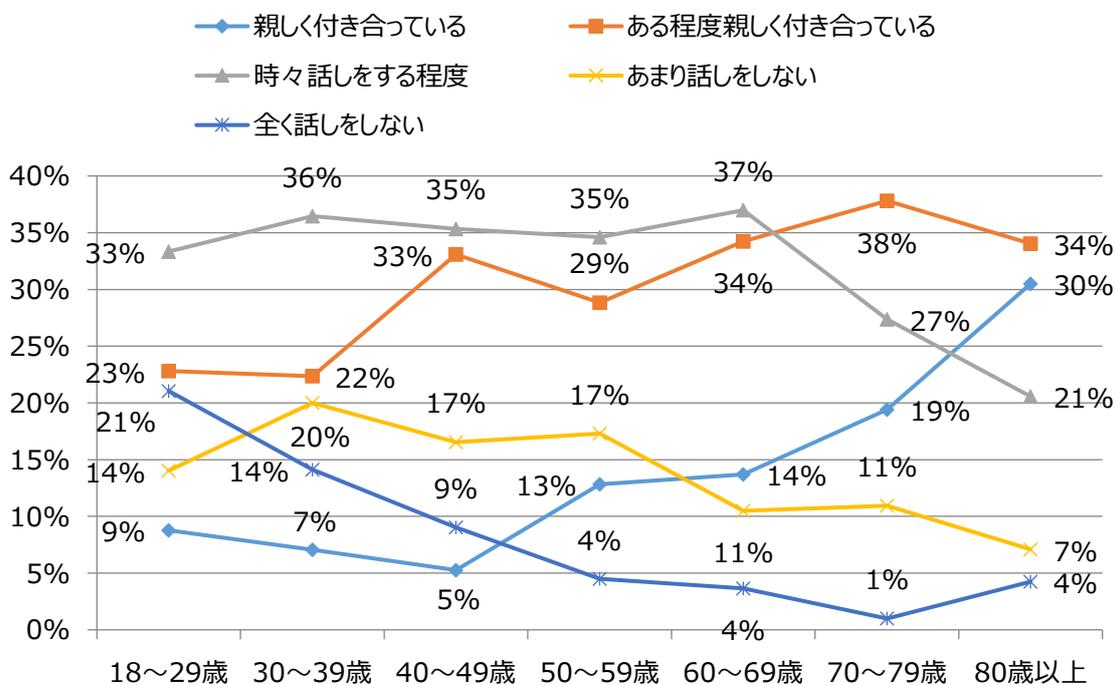
多くの市民の方が環境問題について関心を持ち、身の回りの生活に関わる身近な問題として捉えているという結果が得られました。これらの環境問題に対し、市・市民・事業者が連携した取り組みを進めていきます。

6 地域での生活や地域とのかかわりについて

問44 あなたの隣近所とお付き合いに最も近いものを1つ選んでください。

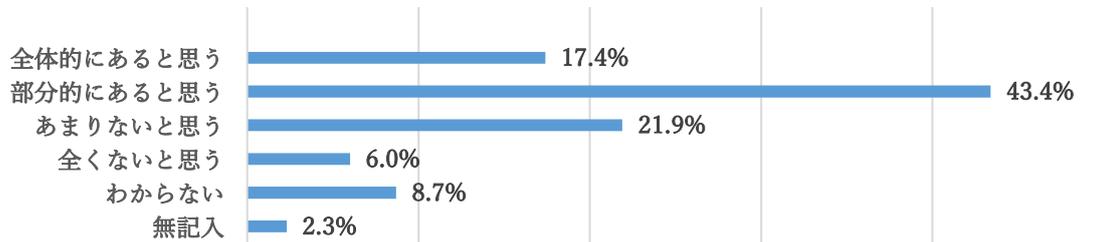


年代別



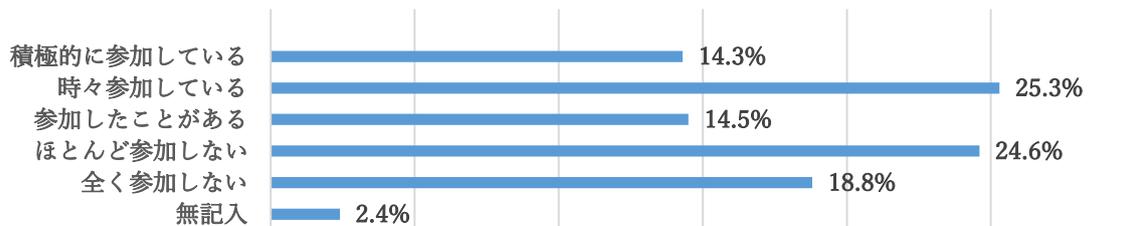
「ある程度親しく付き合っている」と答えた方が32.3%で最も高く、次いで「時々話しをする程度」が31.5%、「親しく付き合っている」が15.2%となっており、全体の79%となっています。しかしながら、地域交流を行っている方の割合は高齢者が高く、若年層については地域交流が少ないことから、若者世代と地域とのかかわる機会を増やす必要があると考えられます。

問45 あなたの住んでいる地域では、困ったときに地域で助け合う気風があると感じますか。1つ選んでください。



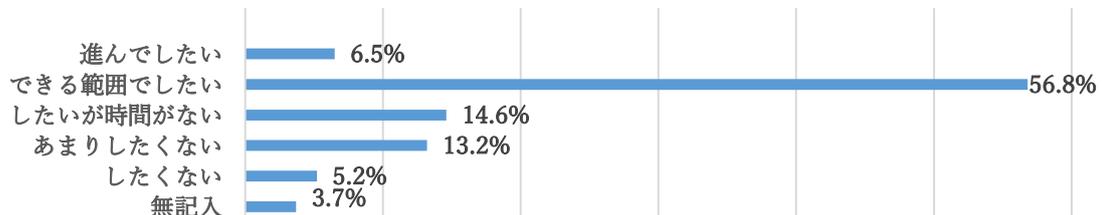
「部分的にあると思う」と答えた方が43.4%で最も高く、「全体的にあると思う」が17.4%となっており、約6割の方が地域において助け合う気風があると感じています。しかしながら、地域の問題や課題は多様化しているため、課題解決のための連携の方法を継続的に検討する必要があると考えられます。

問46 あなたは、自治会行事に参加していますか。1つ選んでください。



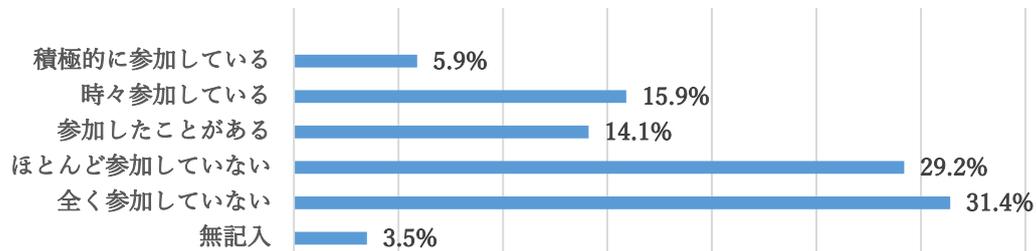
「時々参加している」と答えた方が25.3%で最も高く、次いで「ほとんど参加しない」が24.6%、「全く参加しない」が18.8%となっており、自治会行事に参加されていない方については、地域福祉への関心を高めるための啓発活動を図っていく必要があると考えられます。

問47 地域で手助けを必要とする人に対する日常生活上の声掛け・見回り・お手伝い等について、あなたはどのように思いますか。1つ選んでください。



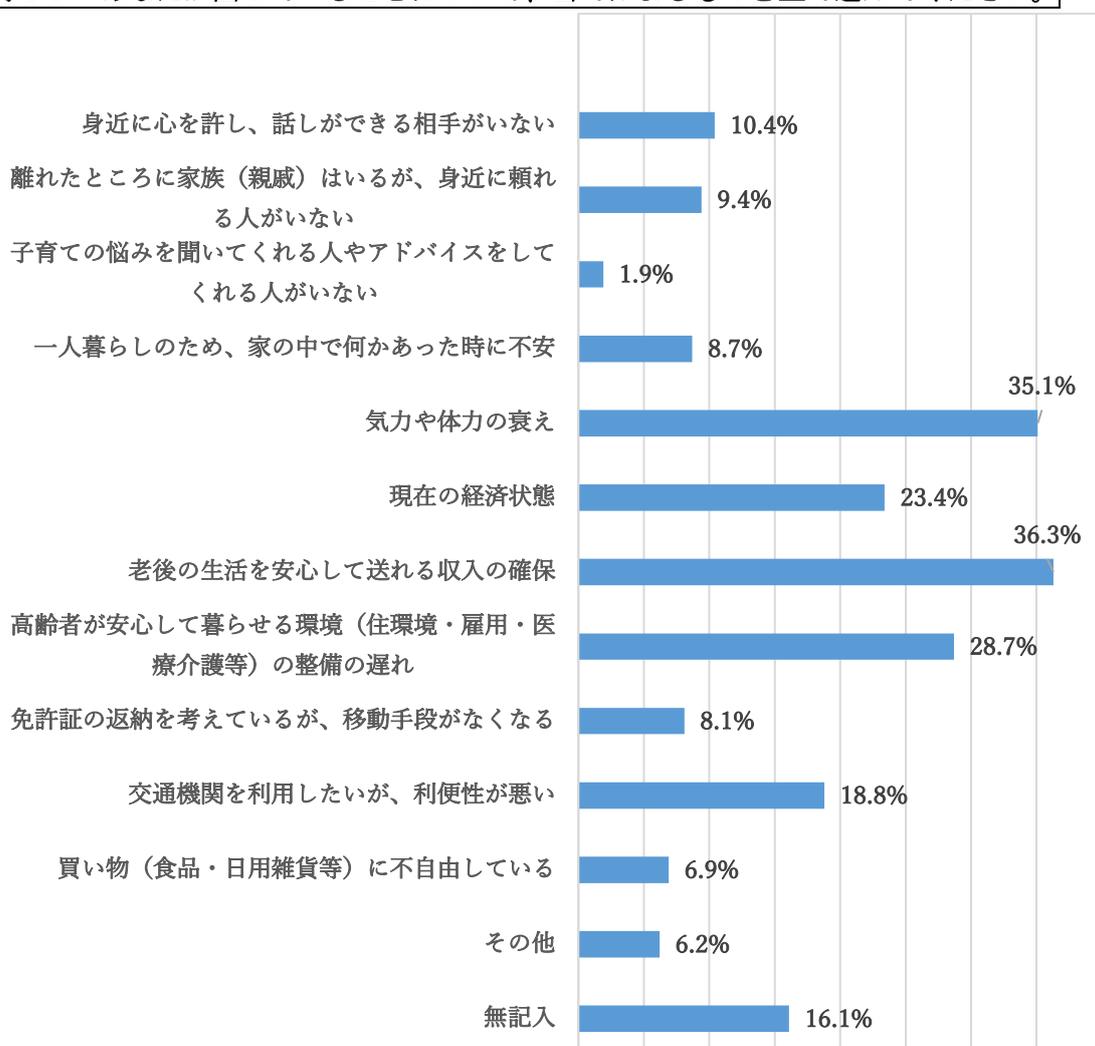
「できる範囲でしたい」と答えた方が56.8%で最も高く、「進んでしたい」の6.5%と合わせると、6割以上の方が何らかの手助けをしたいと考えていることがうかがえます。今後は「地域福祉活動の実践」や「地域の担い手」となる市民に対し、活動参加の機会等を検討していく必要があると考えられます。

問48 あなたは、自治会行事以外の地域活動やボランティア活動に参加していますか。

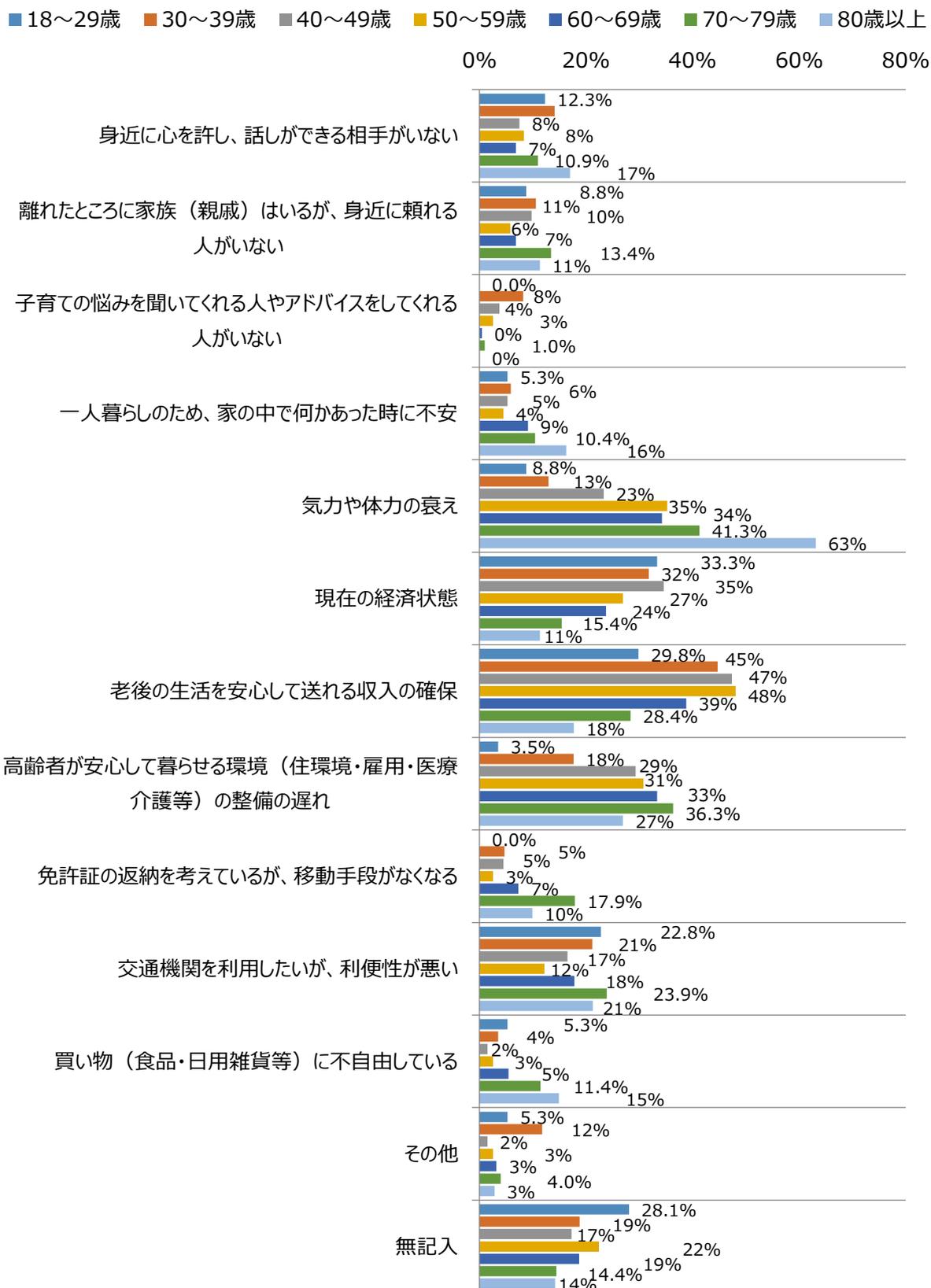


「全く参加していない」と答えた方が31.4%で最も多く、「ほとんど参加していない」の29.2%と合わせると約6割になりました。今後は参加していない地域の方々の活動参加の受け皿を提供する機会をつくっていくことが必要と考えられます。

問49 あなたが困っていることについて、当てはまるものを全て選んでください。



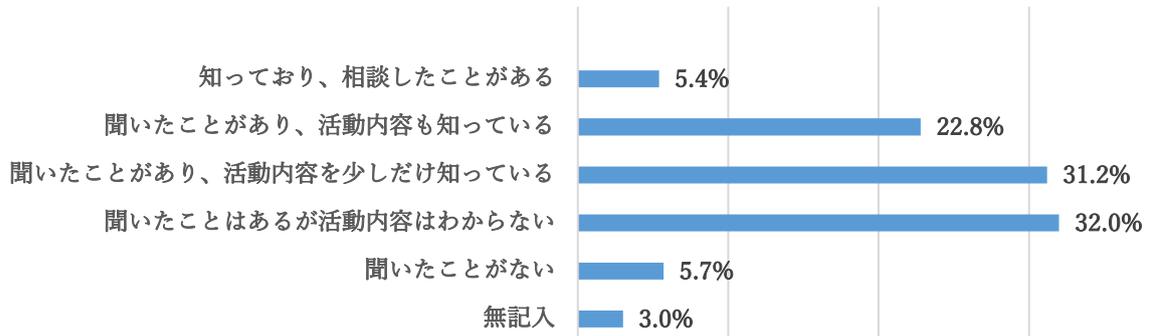
困りごと



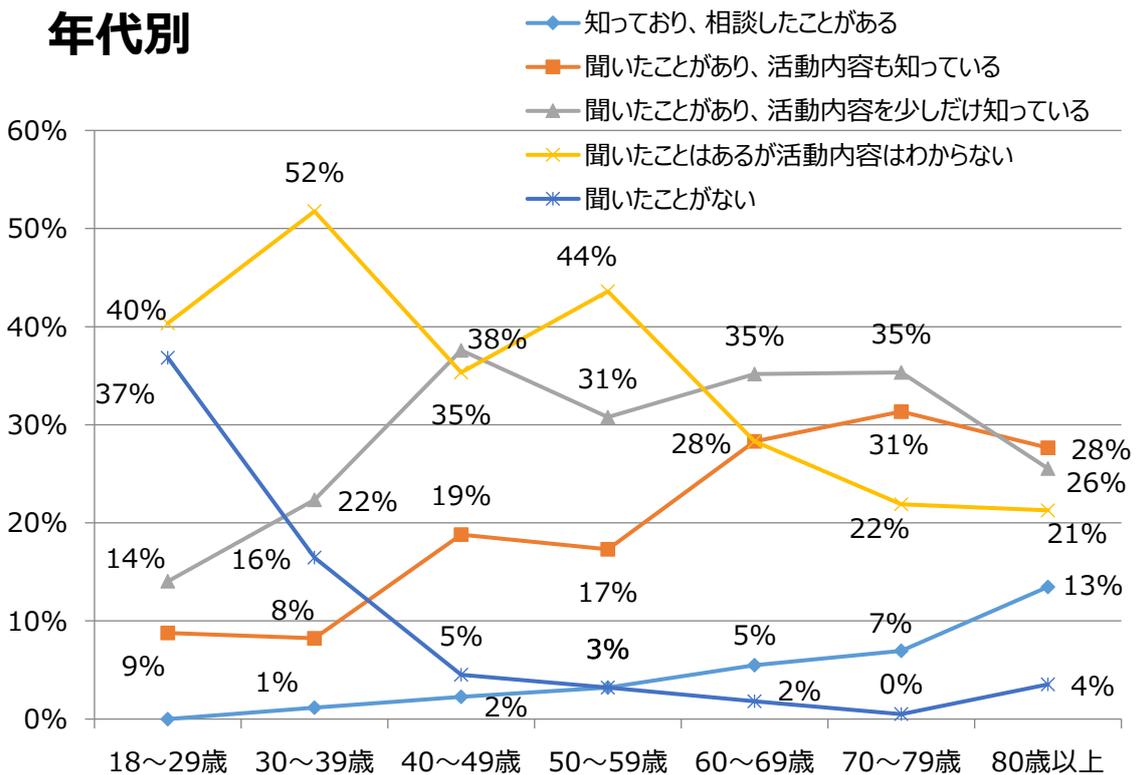
複数回答ではありますが「老後の収入の確保」と答えた方が36.3%、次いで「気力や体力の衰え」が35.1%、「高齢者が安心して暮らせる環境」が28.7%となっています。

年齢層に関係なく、老後の日常生活に関する不安を抱えている方の割合が多いことがうかがえます。

問50 あなたは、民生委員・児童委員制度について知っていますか。1つ選んでください。



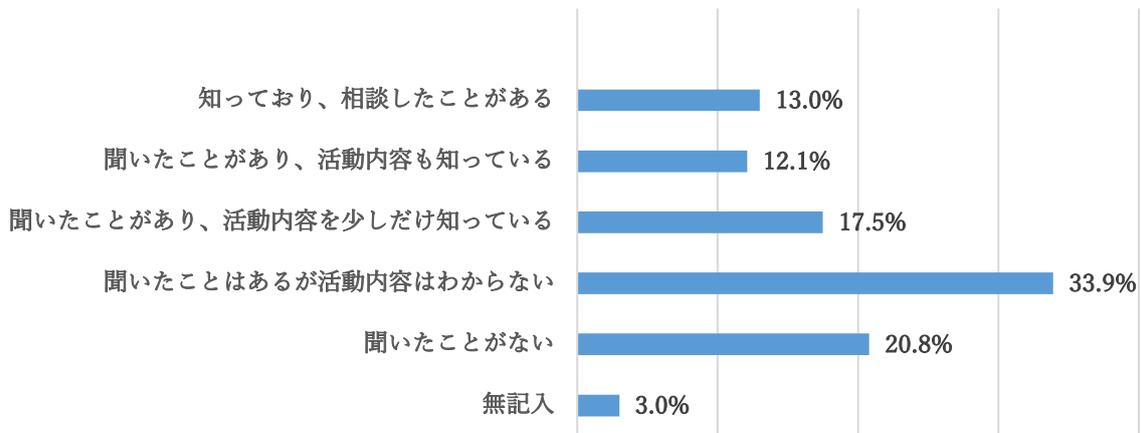
年代別



「聞いたことはあるが活動内容はわからない」と答えた方が32.0%、次いで「聞いたことがあり活動内容を少しだけ知っている」が31.2%、「聞いたことがあり、活動内容も知っている」が22.8%となっています。

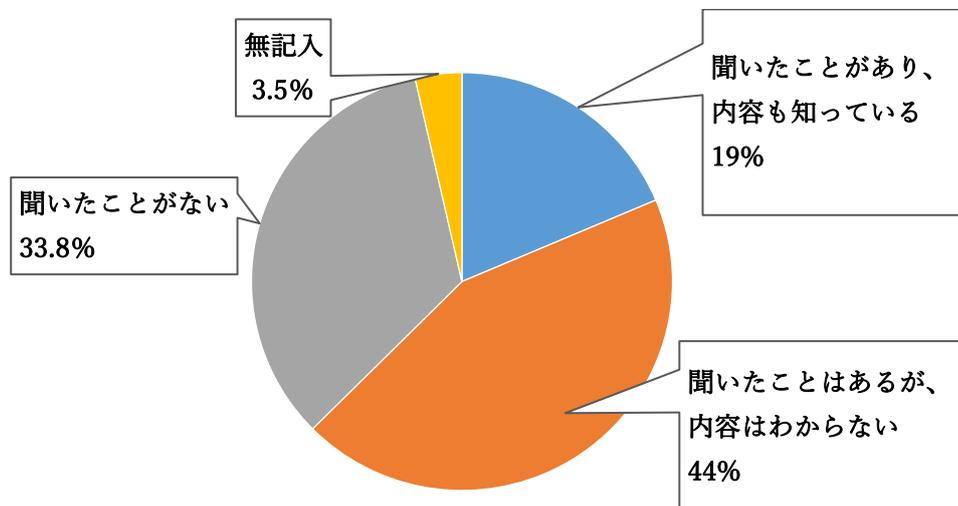
民生委員児童委員は主に高齢者の方々と接する機会が多いため、60歳以上の方の認知度が高いことから、若者世代への周知を図っていくことが必要であると考えられます。

問5 1 あなたは、地域包括支援センターについて知っていますか。
1つ選んでください。



地域包括支援センターの活動内容を「知っている」と答えた方が、42.6%であり、本市の高齢人口割合に比べて高いものとなっていることから、地域の高齢者の総合的な相談業務を行う窓口として、ある程度認知されていることがうかがえますが、今後も継続して周知を図っていくことが必要であると考えられます。

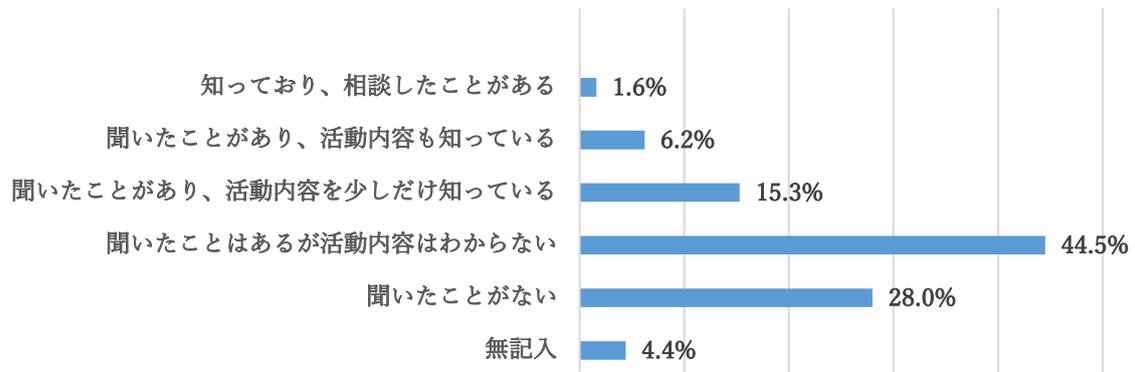
問5 2 あなたは、地域包括ケアシステムについて知っていますか。
1つ選んでください。



「聞いたことがあり、内容も知っている」と答えた方は18.6%にとどまり、地域包括ケアシステムが市民の皆さんにあまり浸透していないことが分かりました。

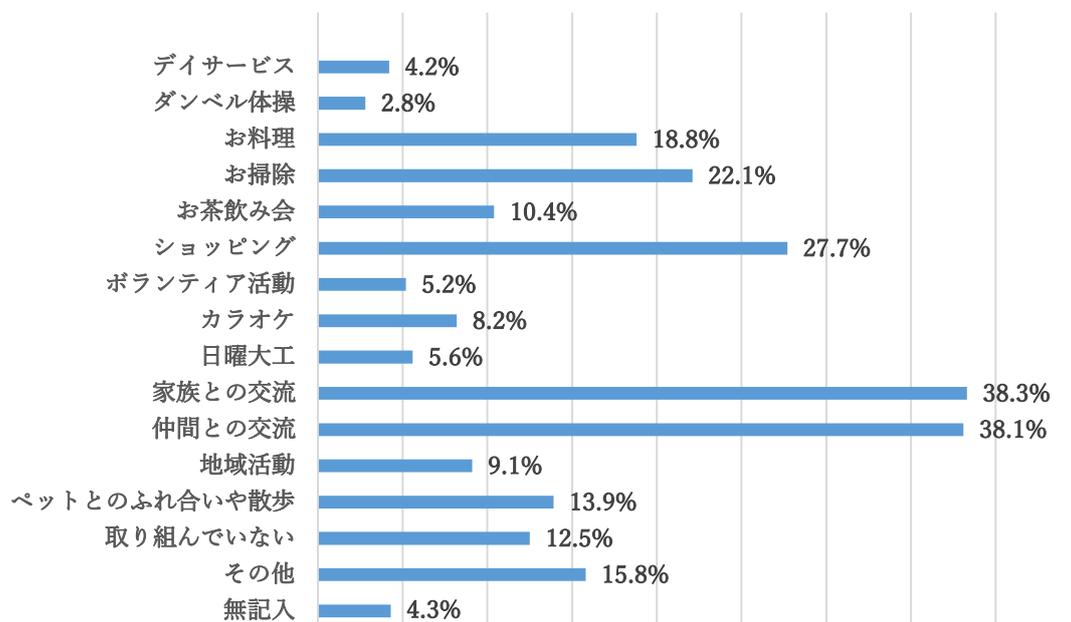
地域包括ケアシステムの構築・推進には、市民の皆さんの理解が重要であるため、今後も出前講座や様々な場面での一層の普及啓発に努めていく必要があると考えられます。

問53 あなたは、生活困窮者自立支援制度について知っていますか。
1つ選んでください。



「聞いたことはあるが内容はわからない」と答えた方が44.5%で、次いで「聞いたことがない」は28.0%、「聞いたことがあり、活動内容を少しだけ知っている」が15.3%、「聞いたことがあり、活動内容も知っている」が6.2%、「知っている、相談したことがある」が1.6%となっている。名称の認知度はあるが活動内容が分からないが多いことから、活動内容について一層の普及啓発に努めていく必要があると考えられます。

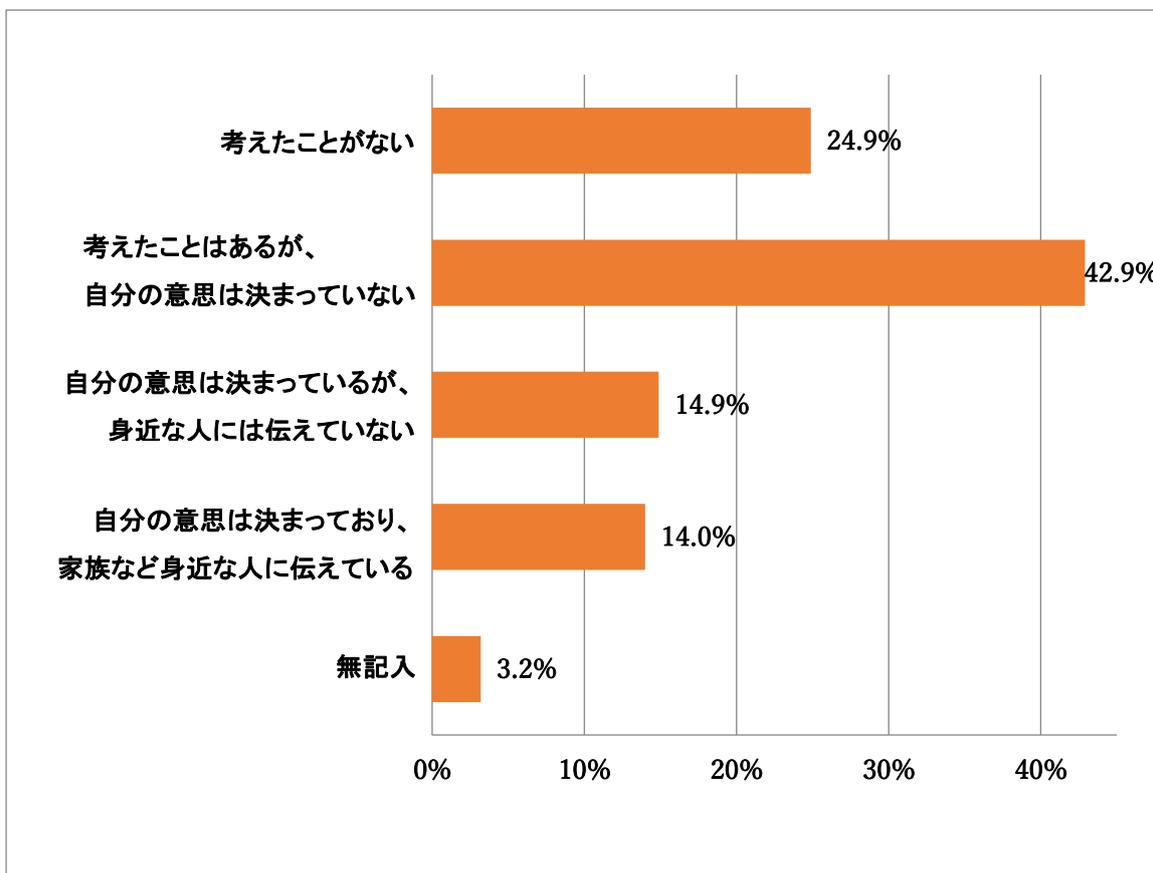
問54 あなたが、心身ともに健康で、いきいきと自分らしく生活するために取り組んでいることは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。



複数回答ではありますが「家族との交流」と答えた方が38.3%、次いで「仲間との交流」が38.1%で、「ショッピング」が27.7%となっています。人との交流を通じて生きがいに繋がるよう今後も啓発を図っていくことが重要だと考えられます。

7 人生の最終段階における医療や介護について

問 55 あなたは人生の最期の過ごし方について、考えたことがありましたか。
1つ選んでください。



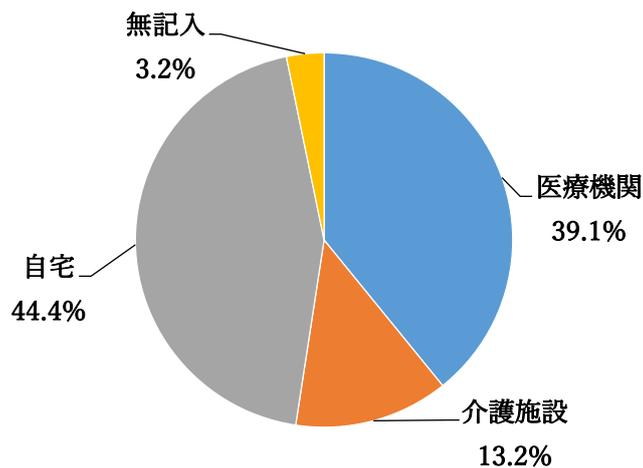
「考えたことはあるが、自分の意思は決まっていない」(42.9%)が最も多く、「決まっているが伝えていない」(14.9%)を合わせると回答者の約6割を占めます。また「考えていない」(24.9%)は回答者の4分の1という結果でした。今後、人生の最期の過ごし方について主体的に考え、身近な人に伝える等の必要性を理解し準備が出来るよう、継続してライフステージや、身体状況等に合わせた情報を提供する必要があると考えます。

もしあなたが以下のような病気になった場合、どのような医療・療養を希望しますか。
問 56 と問 57 にお答えください。

【あなたの病気】

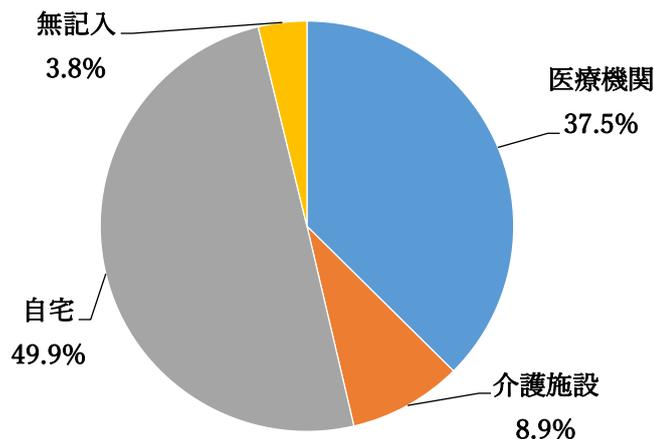
末期がんと診断され、状態は悪化し、今は食事がとりにくく、呼吸が苦しいといった状態です。しかし、痛みはなく、意識や判断力は健康な時と同様に保たれています。

問 56 どこで過ごしながら医療・療養を受けたいですか。1つ選んでください。



(末期がんで判断力が保たれている条件のもとでは) 医療・療養の場所として「自宅」(44.4%)が最も多く、次いで「医療機関」(39.1%)でした。自宅で療養することを希望する方が最も多いことから、住み慣れた自宅での療養を希望された際、必要なサービスを適切に選択できるよう、市民への普及啓発が必要と考えます。

問 57 どこで最期を迎えることを希望しますか。1つ選んでください。



最期を迎えたい場所として、問 56 と同様に、「自宅」(49.9%)が最も多く、次いで「医療機関」(37.5%)でした。特に「自宅」を希望した方は約半数で、問 56 の療養したい場所より、5.5%増加しています。

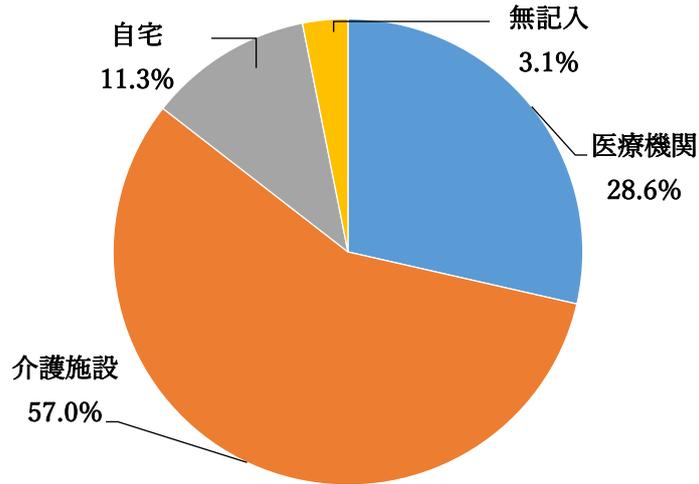
もしあなたが以下のような病気になった場合、どのような医療・療養を希望しますか。

問 58 と問 59 にお答えください。

【あなたの病気】

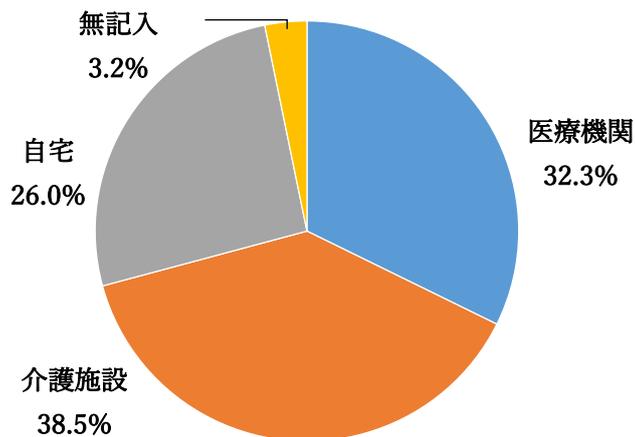
認知症が進行し、自分の居場所や家族の顔が分からず、食事や着替え、トイレなど、身の回りのことに手助けが必要な状態で、かなり衰弱が進んできました。

問 58 どこで過ごしながら医療・療養を受けたいですか。1つ選んでください。



(認知症で身の回りの手助けが必要な条件のもとでは) 医療・療養の場所として「介護施設」(57.0%)が最も多く、次いで「医療機関」(28.6%)、「自宅」(11.3%)の順番でした。問 56、57 と比べ、認知症が進行し介護等が必要な状態では、「自宅」を選択する方が少なくなるという結果でした。

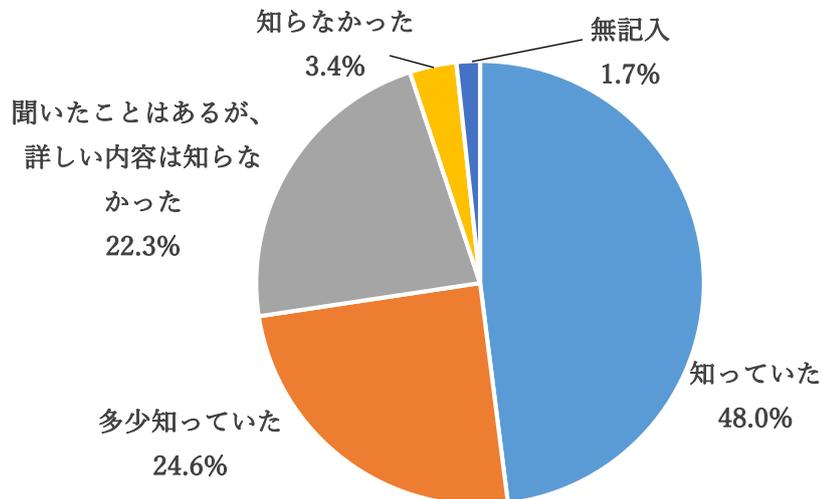
問 59 どこで最期を迎えることを希望しますか。1つ選んでください。



問 58 と同様に「介護施設」「医療機関」「自宅」の順番で希望が多くなっています。しかし、問 58 より「自宅」の希望が15%多くなっており、認知症が進行したとしても最期だけは

「自宅」で迎えたいという希望があることが推察されます。

問 60 在宅医療とは、医師のほか、訪問看護師、薬剤師や理学療法士（リハビリ）等の専門職が、患者さんの自宅や施設等に訪問して医療を行うことです。あなたは、「在宅医療」について知っていましたか。1つ選んでください。

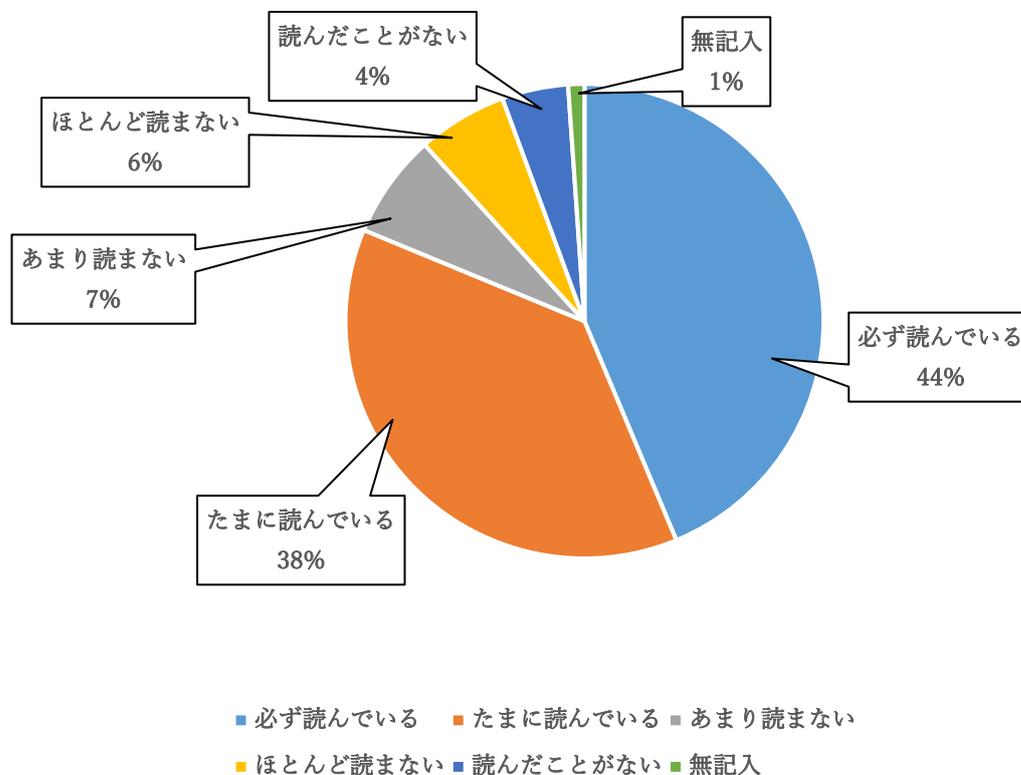


「知っていた」（48.0%）が最も多く、約半数を占めます。一方、「多少知っていた」（24.6%）と「詳しい内容は知らなかった。」（22.3%）を合わせると46.9%で、約半数となります。今後、介護をする側、される側も含め、様々な年代の方が、いざという時に必要な選択ができるよう、出前講座や、作成したパンフレットの活用により、「在宅医療」について理解を深めることが大切だと考えます。

8 広報事業について

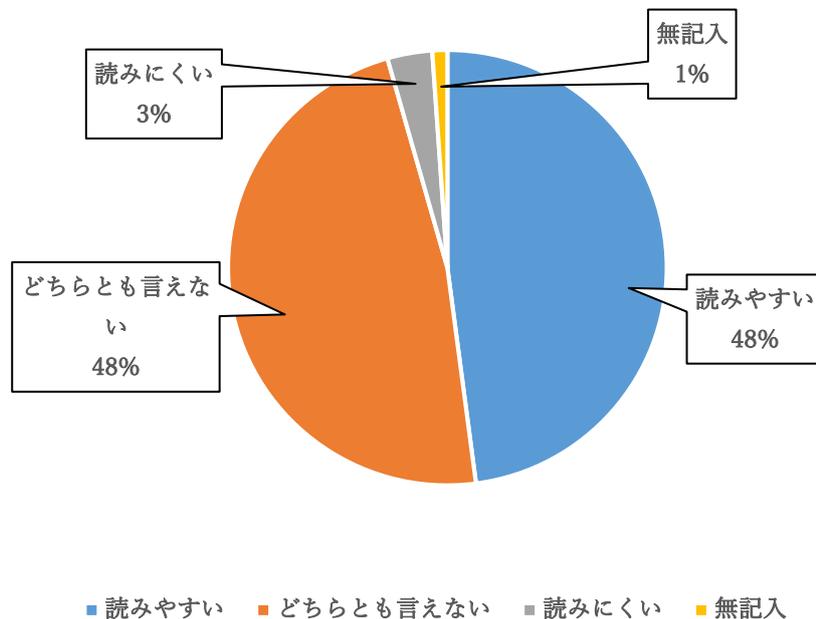
「市報いしのまき」についてお聞きします。

問 61 「市報いしのまき」を読んでいますか。1つ選んでください。



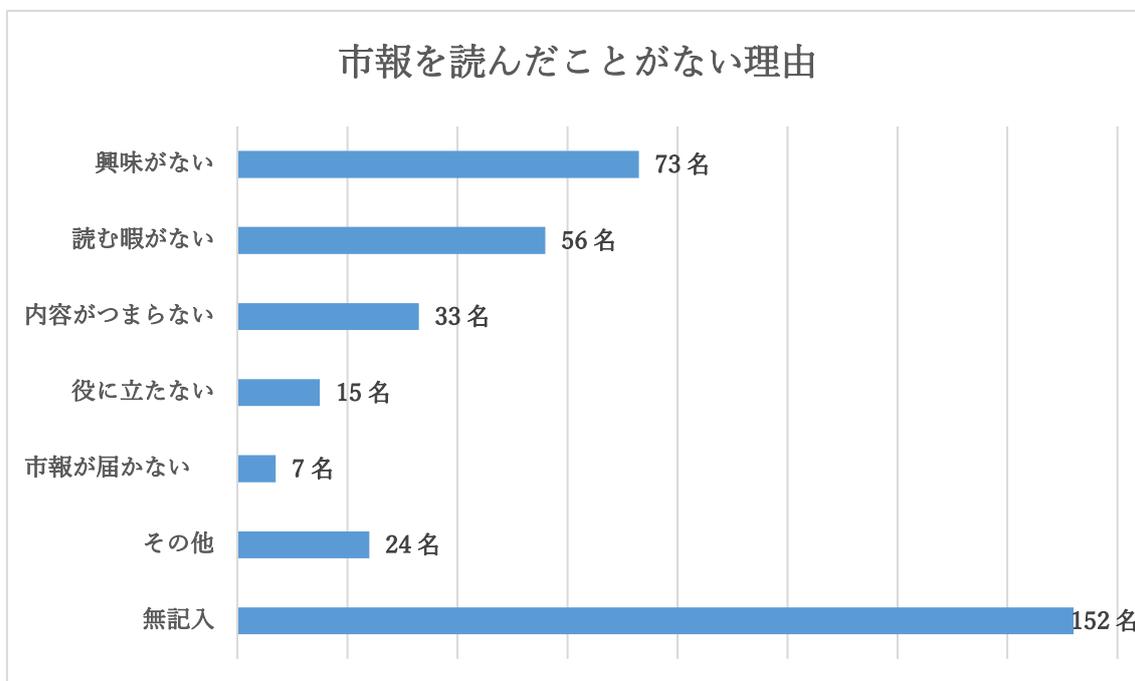
「必ず読んでいる」「たまに読んでいる」と回答した人は、全体の82%であり、市民の多くは市から発信される情報に関心を持っており、市の情報を得る手段として市報を活用している事が分かります。一方で「あまり読まない」「ほとんど読まない」「読んだことがない」と回答した人は17%おり、市の情報に関心を持ってもらえるように、内容やレイアウトの見直しを随時行っていきます。

問 62 問 61 で「1. 必ず読んでいる」「2. たまに読んでいる」と回答した方にお聞きします。「市報いしのまき」は読みやすいですか。1つ選んでください。



「読みやすい」と「どちらとも言えない」はそれぞれ48%ですが、「読みやすい」との回答が半数に満たない事から、より一層読みやすくするための工夫が必要だと考えられます。内容を簡潔に分かりやすく校正するほか、イラストや写真、表等を使用して見やすく分かりやすい紙面作りを心がけます。

問 63 問 61 で「3. あまり読まない」「4. ほとんど読まない」「5. 読んだことがない」と回答した方にお聞きします。その理由はなんですか。当てはまるものを全て選んでください。



最も多い「無記入」を除きますと、「興味がない」「読む暇がない」「内容がつまらない」「役に立たない」と続きました。短い時間でも情報を得られるように、写真やイラストを活用して紙面を見やすくし、内容については簡潔で分かりやすく伝えられるように精査していきます。